

近世後期庄内地域・名主佐藤家の書物ネットワークに関する一考察

——「五峯館藏書」と「書物貸預記并書物注文代記」を中心に——

湯川 真人

はじめに

佐藤家は庄内地方の天領角田二口村（現在、山形県三川町の一部）において代々名主役を世襲してきた家柄であり（表四）、家業として農業と酒造業を営んでいた。佐藤

家歴代の記録は『二口文書』^①によつて知られるが、角田二口村は庄内天領の中では比較的小規模の村落であり（天明八年、村高三百二石九斗）、佐藤家も持高六十石余の中小名主であつた。表題にある「五峯館藏書」^②（表一）とは佐藤家に残る藏書であり、明治二十七年に同家が作成した藏書目録によれば、書籍の総数は千五百七十一冊にのぼる。江戸からの遠隔地にある地方の一名主の藏書としてはかな

りの規模と思われる。これらの書籍がいつ、誰によつて収集されたかを明確にすることは史料の制約により困難であるが、おそらく九代当主東藏貞教（宝暦八年〜文化五年）、十代市右衛門孚兌（明和八年〜文政八年）、十一代善三郎行道（寛政十年〜安政六年）の三代の間で少しずつ買い溜められたものと思われる。

九代東藏は自らの読書により儒学を学び、家訓書ともいえる『村史略』や村方文書の編纂書でもある『隅田領袖』を書き表しているほか、漢籍からの抜書、雑記、写本などを残している（表二）。「五峯館藏書」の中で漢籍・儒学書、特に庄内藩の藩学であつた徂徠関係の書籍の多さが注目されるが（表三）、これらの書物が東藏の読書や学問の基となつていた。十代市右衛門は東藏の娘婿であるが、佐藤家

と親交のあつた藩の儒者和田伴兵衛に儒学を学んだほか、藩の歌人である池田玄斎や建部山比子と交流し多くの和歌を残している。漢詩にも長じ、『詩文章彙』や『詩草判官』の詩集がある。蔵書のうち「詩材三」にある書籍や韻鏡などの相当部分は、市右衛門によって買い求められたものと思われる。十一代善三郎は多才な文人であり、和歌は建部山比子の門人となり『行道和歌集』、『愚吟雑歌集』、『長歌原稿』の和歌集がある。また、俳諧も出羽美濃派五代目宗匠地主文二との交遊があり、日本画も京都の越前介岩駒に通信添削のような形で師事している。善三郎の著作としては、天保十五年に年貢米納入立会いのため大坂まで往復した間の『道中日記』、『帰国道中記』や、大坂に逗留した間に記した『見聞録』がある。善三郎はこうした多彩な文化活動のほかに、表題にある「文政八年酉十一月三日改書籍貸預記并書物注文代記」を作成しているが、これは「五峯館蔵書」がどのような人々に貸出されていたか、逆に善三郎がどのような書物を借り受けていたか、また購入していたかについての詳細な記録である。

「五峯館蔵書」と「書籍貸預記并書物注文代記」は佐藤家をめぐる読書のネットワーク形成についての分析を可

能にし、佐藤家における文化活動の一面を知りうる貴重な史料である。佐藤家の歴史において、九代東蔵以前に学問や文化的活動を行なった形跡を示す史料は殆どなく、東蔵に至つて漢籍・儒学書を読書し、市右衛門、善三郎と代が下るにつれ文化活動の内容も漢詩、和歌、絵画、俳諧と裾野を拡げ、蔵書の収集範囲も多岐にわたつてきている。ここではそうした佐藤家三代の読書や文化活動を基にして蓄積された蔵書が、どのような人々の間で、どのような形で手渡され読まれていったのか、「書籍貸預記并書物注文代記」における記録によつて考察したい。

一 「書籍貸預記并書物注文代記」の記載について

「書籍貸預記并書物注文代記」（以下「同記」）の内容を見る前に、同記の記載のされ方について若干コメントしておきたい。「同記」は縦約13cm、横約18cmの和紙に手書きされたものであり、一本の紙紐で綴じられている。「同記」は「貸方」、「預方」、「注文代記」の三部に分かれており、表十二、十三、十四はそれぞれの記載内容を表にしたものである。「同記」では表にあるような「年月日」、「書籍名」、

「冊数」、「貸出先」、「備考」といった項目が立てられているわけではなく、この順序で羅列的に記載されているものを筆者が項目別に整理したものである。

(一)「同記」の表紙には「文政八年酉十一月三日改 佐藤善三郎」と記されているが、記録は「貸方」は明治三十年十二月十日、「預方」は明治二十五年一月六日、「注文代記」は明治十一年六月二十三日までである。(表では明治以前までの記録を掲載した)従って善三郎の死後(安政六年没)も、代々の当主によつて記録され「同記」に加えられたものである。「改」とあるのは、「同記」には文政八年十一月三日以前に遡つた記録があり(「貸方」は文化十三年まで、「預方」は文政六年まで)、同日以前の貸預関係を「改めた」という意味と解される。また、「同記」は日付が遡っているもの(「貸方」四件、「預方」一件)、日付の無いもの(「貸方」二十三件、「預方」十八件、「注文代記」十件)があり、「貸預」や「注文」の行為が行なわれた日に書かれていないものも相当数あると考えられる。

(二)「書籍貸預記―貸方」

・貸出先…書物を貸出した相手の居所、貸出した相手の名

前が順に記載されている。括弧内は貸出先に書物を届けた人の名前(の略)であるが(原史料には括弧はない)、記載の無いものも多くある。(直)とあるのは、貸出した相手が直接佐藤家を往訪し借り出したものと考えられる。

・備考…書物の返却日、書物を受け取りに行った人の名前が記載されているが、受取人の名前の記載が無いものが多い。この場合も(直)とあるのは、貸出した相手が佐藤家へ直接返しに来たものと思われる。また、(64)のように誤記も見られる。

(三)「書籍貸預記―預方」

・預り先(佐藤家が書物を預つた≡借りた先)…書物を借りた相手の居所、借りた相手の名前、書物を受け取りに行った人の名前の順に記載されている。(直)は借りた先が書物を直接佐藤家に届けに来たものと解されるが、「貸方」と比較して数は少ない(五件)。これは佐藤家が書物を借りる立場であつたからと思われる。

・備考…基本的には書物を返却した日、および書物を借りた先に届けた人の名前が記載されている。但し後述するように、多くの場合書物は様々な経路を経て返却さ

れており一様ではない。(直)は借りた先が直接受け取り来たものと解されるが、その数は二件と少ない。また、⁽¹⁷³⁾⁽¹⁷⁴⁾については、これらの書物が「五峯館蔵書」にあること、中でも⁽¹⁷³⁾⁽¹⁷⁴⁾には「受取」とあることから、「貸方」にあるべきものと思われる。

(四)「書物注文代記」

書籍名・書物(含む絵)以外に、筆爪、印形、眼鏡などの購入(七件)も記載されている。佐藤家の道具類の購入はこれだけにとどまらなかったと思われるが、何故この七件のみが「注文代記」に記載されたのかは不明である。また、購入したものだけでなく、売り渡したものの(六件)も記されている。書物(含む絵)の購入総数は八十七点であるが、これらの中には「五峯館蔵書」の目録に無いものもある。

注文先・書物を購入した先が記されているが、記載の無いものもある。

備考・書物の代金の金額、分割払いをした場合の金額やその残金、駄賃(この意味は明らかでない)の額、代金の支払人、受取人の名前などが詳細に記されている。支払人は使いの場合もあるが、多くの場合善三郎が直接支

払っている。「出入りなし」とあるのは、貸し借りが無いという意味に解される。

以上を踏まえて、次にそれぞれの内容について見ていきたい。

二 書物の貸出先と貸出された書物

佐藤家から書物が貸出された回数を見ると、文化十三年(一八一六)から慶応二年(一八六六)までの五十年間で二百九十七回にのぼるが、殆どが文政五年から(一八二二)から文久三年(一八六三)までの貸出で、その年平均の貸出回数は約七回であり、頻繁に貸出が行なわれていたというわけではない。貸出先の総数は五十数名であるが、貸出した回数が六回以上の先は十一名で、その貸出回数の合計は二百二十回と全体の七割五分を占める。すなわち佐藤家の書物が貸出されていた範囲はさほど広いものではなく、またその中でも比較的少数の特定の人々を中心に貸出されていたことがわかる。(表五)

主な貸出先を見ると、宝蔵院(手習い所)、真鳴家(鶴岡の富商、佐藤家の親戚)、進藤周人(藩医)、小笠原道端

(医者、歌人)、和田家(藩の儒者和田伴兵衛の子孫)、建部山比子(歌人)、角田二口村の安右衛門などであり、このほか貸出の回数が少ないが、児玉家(鶴岡の富商、佐藤家の親戚)、小野田吉右衛門(鶴岡の富商)、柴田盛碩(角田二口村の隣村播磨京田村居住の医者)、青山村小川氏、至徳院・明性院などが貸出先になっている。佐藤家の蔵書を借りて読んだ人々は、教育者、医者、歌人などの知識人や文人、および富商や近村の上層農民であった。頻出する借り手で特定できない人物としては、宮下須佐家、蓮池主斗、天神堂村上野養齋、天神町辻将監、辻興屋村進造などであるが、これらの人々も近村の上層農民や鶴岡城下に住む知識人・文人だったのではなからうか。(表六)

貸出先の居所を見ると、農村部では善三郎の居村である角田二口村、その近村である辻興屋村、播磨京田村(天領)、青山村、天神堂村(天領)、長崎村、土橋村、新形村、大山村(天領)、菱津村、三瀬村などで、三瀬村を除くといずれも角田二口村から約10km以内に位置している。鶴岡城下では一日市町、三日町、五日町、八日町、荒町、高畑町、天神町、最上町などで城下の中心部が多い。角田二口村から鶴岡までは7kmほどであり、書物が貸出された範囲は距

離的にもさほど広域にわたるものではなかった。

書物の受け渡しは使いの者によることが多いが、借り手が播磨京田の宝蔵院、辻興屋村、青山村、天神堂村など距離的に近い場合、直接佐藤家を往訪して借り受けている。隣村でも辻興屋村の小笠原道端のように老人に場合には、使いが書物を運んでいる。また、宝蔵院は時々手習いの子供が使いとなつている。使いの者は角田二口村の住人およびその家族や佐藤家の使用人である場合が多い(表七)。特定できない使いの者も多いが、貸出先の家族あるいはその使用人とも考えられる。

貸出した書物を見ると、「五峯館蔵書」目録に無い書物が六十七点もある(表八)。この内「注文代記」で購入が確認されたものが七点あるが、これらの書物は目録に記載漏れか目録作成時(明治二十七年)までの間に紛失したものと考えられる。購入が確認されない書物については、「注文代記」が書き留められる文政十年以前に購入されたもので、貸出された時点から目録作成時までの間に紛失したものと推測される。書物の中には『水府公献策』のように、購入後短時間で貸出されたものもある。(安政二年三月二十一日購入、同年四月七日真嶋家へ貸出)

三 書物の預かり先と預かった書物

佐藤家が書物を預かった（借りた）回数、文政六年（一八二二）から慶応二年（一八六六）までの四十三年間で百七十一回あるが、殆どが文政十年（一八二七）から安政五年（一八五八）までで、その間の年平均預り回数は約四回である。預かり先の総数は五十名弱で、その内預かり回数が多い十名で百三回あり、全体の六割程度を占めている。書物の貸出と同様に、佐藤家が書物を借り受けた範囲も広いものではなく、比較的少数の特定の人々から借りていたことが分かる。（表九）

主な預かり先は、小笠原道端、真嶋家、三日町丁字屋門吉、青山村小川氏、山王前斎藤五右衛門、進藤周人、五日町地主文蔵、蓮池主斗、辻興屋村進造などであるが、預かった書物の数からみてそれぞれの家には、相当の蔵書があったと推測される。この内小笠原道端、真嶋家、進藤周人、蓮池主斗については佐藤家からの貸出回数も多く、これらの人々の旺盛な読書欲がうかがえる。一方で貸出の多かった宝蔵院や宮下須佐家からの預かりが少ないのは、自家で

所有する書物が少なかったためと思われる。預かり先で特徴的なのは、丁字屋門吉や地主文蔵（地文）といった鶴岡城下の書肆から多くの書物を借り受け、その見料を支払っていることである。このことは当時これらの書肆が書物を持っていただけではなく、見料を取って貸出す貸本屋の機能を持っていたことを示している。また、佐藤家は個人から借りた際に、お礼として大麦、新酒、稲庭（うどんのことと思われる）を贈っているのが興味深い。（49、100、116）また、借りた書物を後日代金を支払い買い取っている場合もある。（4、153）

預かり先の居所は、農村部は居村、新形村、辻興屋村、青山村、天神堂村、押切村、東沼村、横山村、大山村、矢馳村、土橋村など貸出先と重なることが多いが、いずれも距離的には貸出先とほぼ同じ圏内である。鶴岡城下からの預かりも多く（一日市町、三日町、五日町、十日町、荒町、紙漉町、鳥井川原町）、この場合もその多くは貸出先と重なっている。

書物の受け渡しについてみると、書物を佐藤家に預けた（借した）人が直接持参したのは、五件と少ない。これは佐藤家が借りる立場にあるので、借りる側から出向くの

は当然だったのであろう。貸出の場合と同じように、居村の住人やその家族が使いとなつて書物を受け取っている場合が多いが、善三郎自身が出向いていることもある（二十一件）。この内十三件は丁字屋と地文であり、善三郎が書物の購入も含めて鶴岡の書肆までよく出向いていたことがうかがわれる。

「備考」に記載されている受け渡しの動きをみると、書物が単に一对一の「貸預」関係ではなく、実に多様な経路を通つて移動し、複数の読者に読まれていたことがわかる。書物の移動の経路をまとめてみると次のようになる。

- (イ) 預かり先↓佐藤家↓預かり先へ返却
- (ロ) 預かり先↓佐藤家(また貸し)↓第三者↓佐藤家↓預かり先へ返却 (32, 36, 75, 125, 154, 170)
- (ハ) 預かり先↓佐藤家(また貸し)↓第三者↓預かり先へ返却 (50, 51, 119, 161)
- (ニ) 書物の所有者(貸出)↓預かり先(また貸し)↓佐藤家↓預かり先へ返却 (54, 55, 115, 116, 160)
- (ホ) 書物の所有者(貸出)↓預かり先(また貸し)↓佐藤家↓書物の所有者へ返却 (94, 135, 145)
- (ヘ) 預かり先↓佐藤家(また貸し)↓第三者↓? (98, 110)

(ト) 書肆(貸出)↓預かり先↓佐藤家↓預かり先へ返却 (107)

(チ) 書物の所有者(貸出)↓預かり先(また貸し)↓佐藤家(また貸し)↓第三者↓佐藤家↓預かり先へ返却 (108, 109)

(リ) 書物の所有者(貸出)↓第三者(また貸し)↓預かり先(また貸し)↓佐藤家↓書物の所有者へ返却 (150)

(ヌ) 預かり先↓佐藤家(また貸し)↓第三者↓佐藤家↓(買入れ) (167)

(ヲ) 預かり先↓佐藤家(また貸し)↓第三者↓佐藤家(また貸し)↓第三者↓預かり先 (169)

こうした多様な経路を経た書物の移動は、先に見たように借り手と貸し手の居所の範囲が比較的狭く、また貸し手・借り手が地方の知識人、文人、豪農層、富商が中心であり、長年の間互いに親密な関係にあつたことによりはじめて可能になつたと思われる。また、同様な書物の移動は、佐藤家が貸出した書物についても起きていたと考えられる。「貸方」にある書物で蔵書目録に無い書物の一部は、こうした移動の際に紛失したとも考えられる。

預かった書物を見ると、「預方」に記載されており、かつ蔵書目録にも記載のある書物が十九点ある(表十)。この内、「注文代記」で購入が確認される書物十一点を、その購入時点と預かった時点を比較してみると次のようになる。

『尊円親王庭訓』(購入→天保六年十二月、預かり→文政十年)、『王義之十七帖』(購入→天保四年三月、預かり→天保八年六月)、『白詩選』(購入→天保十年八月、預かり→天保九年失念)、『種字啓原』(購入→嘉永五年十一月、預かり→天保十三年四月)、『都名所図会』、『同拾遺』(購入→嘉永二年二月、預かり→弘化三年二月)、『農具便利論』(購入→嘉永六年四月、預かり→嘉永六年四月)、『地方落穂集』(購入→安政二年十月、預かり→安政二年一月)、『開国兵談』(購入→安政五年六月、預かり→安政二年三月)、『辺要分解』(購入→安政五年六月、預かり→安政三年一月)、『古易断時言』(購入→安政三年五月、預かり→安政四年五月)

これは次のように解される。

(イ) 購入時点が預かり時点より遅い↓借りて読んで面白かった書物を購入↓「蔵書目録」

(ロ) 購入時点が預かり時点より早い↓『王義之十七帖』

点付、これは訓点したものを預かったものか。『古易断時言』は同人物から購入・預かっており、預かりは貸出の間違いではないか。同書は文久元年十一月真鳴家へ貸出されている。

このほかの「預方」に記載されながら、かつ蔵書目録にある書物についてその理由は明らかでない。

また、蔵書目録に記載が無く、「預方」および「貸方」に記載ある書物として、『天経或問』(「預方」天保七年四月、天保十一年三月、「貸方」嘉永十三年四月)、『全分抱朴子』(「預方」天保九年七月二十八日、「貸方」同年同月八日)、『閑散余録補』(「預方」天保十三年一月、嘉永四年六月、「貸方」安政四年)の三点があり、これは佐藤家が預かってまた貸したものと思われるが、期間が空きすぎている点が気になる。『全文抱朴子』の場合は日付の記憶間違いと思われる。

四 書物の買い入れと売り渡し

購入した書物八十一の内、半数以上の四十八点が鶴岡の書肆である丁字屋と地文からの購入である。善三郎の知

人經由で江戸の書肆に注文した書物も六点ある。買入れ先である「柳や」、「堺や」、「紅屋」「三国屋」、「加賀屋」は鶴岡の商人と思われるが、その生業は不明である。また、小笠原道端、蓮池主斗、建部氏、林東弥、播磨至徳院など佐藤家と親交のあった個人や、書物の「貸預」関係にあった先からも購入している。特徴的なのは「注文代記」で購入が確認できる書物の内、二十四点にのぼる書物が蔵書目録に記載されていないことである。(三十点の内、売却されたものが六点) これらは目録作成時まで紛失したと考えられるが、「貸方」に記載されているのは七点のみであり、貸出された途中で紛失した書物はそう多くないと思われる、残りの書物の行方が気になるのである。

「注文代記」には書物の代金の実額、支払い方(「両かへ」)、分割払い(「残り支払い」)、代金の割引(「まけ〃〃ひき」)、駄賃(意味は明らかでない)、受取書の授受など興味深い記録があるが、今回の報告では触れる余裕が無かった。

おわりに

佐藤家の蔵書について、「五峯館蔵書」目録を「書籍貸

預記并書物注文代記」によって検討すると、①目録に無い書物が貸出されている(六十七点) ②目録にある書物を預かって(借りて) いる(十九点) ③購入が確認されている書物で目録に無い書物が存在する(二十四点)、といった齟齬が見受けられる。これらは「同記」の作成者の記載違い、記憶間違い、書物の移動から生じたもの、紛失などによるものと考えられるが、その背景として佐藤家の蔵書には特に文政期以降目録に見る以上の書物が存在したこと、佐藤家が「貸預」していた書物が、佐藤家と親密な関係にあった人々の間で、多様な形で移動していたことが挙げられよう。十一代善三郎が文政八年に「同記」を書き留め始めたのは、こうした状況が契機となっていたのではないかと思われる。

佐藤家をめぐる読書のネットワークについて考察すると、貸出先は記録されている期間の長さのわりには人数が少なく、貸出先の多くは佐藤家と親交のあった鶴岡城下に居住する知識人・文人、富商や近村の上層農民という特定された人々であり、地域的な広がりもさほど広範囲ではない。これは書物の預かりの面からも、預け手は貸出先と重なる人物が多く、書物の移動が比較的少数か

つ特定の範囲であったことで裏付けられる。その理由については、江戸の中後期において、庄内地方という江戸からの遠隔地に居住する佐藤家のような中小名主やその周囲の人々にとって、書物は高価で貴重なものであったこと、また佐藤家の蔵書にある書物が漢籍・儒学書・史書・漢詩・和歌など当時のこの地域の非武士階級の庶民が読書するには、かなり高度であり難解なものであったことが、佐藤家をめぐる読書のネットワークを限定的なものにしたのではないかと考える。一方、佐藤家に対し、借り手でありまた預け手でもあった比較的少数の人々には、自家において相当規模の蔵書があったことをうかがわせる。

興味深いのは「同記」によつて知られる書物の移動のあり方である。移動のパターンは多様であり、一つの書物が様々な形・経路で人から人へ渡つていたことがよくわかる。このことは、書物の所在（何の書物を、今誰が借りていて、誰に返すべきかなど）を何らかの形で複数の人々がよく認識していたことを示している。その形とは、例えば読後の感想などを語り合う状況が日常的にあり、そうした場を通して書物の所在についての情報が人

々の間で交わされていたのではないか。いずれにしても、「蔵書目録」、「貸方」、「預方」で見ると書物の移動にある程度の混乱があったことがうかがえるが、そうした混乱にも拘らず高価であった書物を、特に貸出しの証文を取るわけでもなく移転させていたことは、人々のネットワークの親密性を示すと同時に、読書に対する強い欲求が存在していたことを示している。

このほかにも丁字屋や地文のような鶴岡の書肆が、書物の販売のみならず貸し手（貸本屋）として機能していたことも興味深い。当時の地域において貸本の対象となる人々はどのような階層の人々であり、どのような書物が貸出されていたのか、他の地域の書肆もこうした機能を持つていたのか、などは興味ある課題である。

筆者の今後の課題としては、佐藤家三代の当主が「五峯館蔵書」におけるどの書物をどのように読んだのかを詳細に検討することにより、読書が彼らの思想形成に与えた影響に迫るとともに、「書籍貸預記并書物注文代記」に見られる佐藤家を取り巻く人々の読書のあり方を通して、当時の庄内における地方知識人の知的関心の所在を考えてみたい。

【注】

(1) 『二口文書』 目録は①二口文書目録(昭和三二年一月、庄内史料調査会)、②二口文書目録(別冊)(昭和四八年一月、庄内史料調査会)、③二口文書追加分(作成年不明、手書)、④二口文書佐藤東蔵収集諸資料(作成年不明、手書)、⑤二口文書典籍蔵書目録(作成年不明、手書)から成っている。③④⑤は佐藤家により作成されたものと思われる。『二口文書』にある文書の相当部分が『三川町資料集』14巻として、山形県三川町教育委員会の編集により、平成八年三月に出版されている。

二口文書目録①および②の構成は以下のとおりである。

- | | | | | | | |
|---------|------|----------|--------|----------|----------|----------|
| 1 支配 | 2 土地 | 3 租税 | 4 村 | 5 戸口 | 6 身分 | 7 治安 |
| 8 凶荒救恤 | 9 土木 | 10 産業・職業 | 11 農林業 | 12 水産業 | 13 金融・貸借 | 14 商業・売買 |
| 15 交通運輸 | 16 家 | 17 地誌 | 18 宗教 | 19 習俗・行楽 | 20 学芸・医療 | 21 絵図 |
| 22 | その他 | | | | | |

③二口文書追加分は区分されておらず1から910までの番号が付されている。

④は①から③に収録したあとでまとめた資料と思われる。

(2) 「五峯館蔵書」目録は(イ)二口文書目録①(昭和三二

年一月、庄内資料調査会)の内 20学芸・医療番号1、五峯館蔵書目録、明治二七年作成、および(ロ)二口文書典籍蔵書目録(作成年不明、手書、鶴岡郷土資料館に移管前に佐藤家により作成されたものと思われる)により作成した。

【表一】「五峯館蔵書」目録

箱	本名	数	発行年		備考	(有無)
倭帖	古訓古事記	3	享和3年	版		○
	神代卷	2	元禄8年	〃		○
	古今集遠鏡	6		〃		○
	拾遺和歌集	2		写		○
	後撰和歌集	2		写	享和2年	○
	土佐日記抄	2	寛文元年	版		○
	山比子大人家集	1				○
	百首歌	1			手書	—
	通玄集	1			当時の歌人を網羅す	—
	飛毛鏡	3	明和8年		和歌のつくり方	—
	ともからみ	1			和歌のつくり方、てにおわ	—
	神楽歌催馬楽	1		写		○
	和歌八重垣	7				—
	かさねのいろあひ	1				—
	翠曲鈔	2			在民勅御家歌合	—
	上代歌合	1		写		○
	伊勢物語	1		写	詠付	○
	土佐日記	1	明治18年			○
	徒然草	1	元禄14年		絵入	○
	玉あられ	1		写		○
	冠辞	1		写		○
	初栄和歌式	4		版		○
	さきくさ	1	文化10年	写		○
	和歌てにおわ見聞私録	1	安永8年	版		○
	たなはた	1			万葉写本	—
	行道和歌集	9			行道自身手書 文政-天保	○
	誹諧をたまき	2				—
	延齡松詩歌前集		天保10年	版		○
	和漢朗詠集	2		版		○
	初学	2		写		○
	かくも草	2				—
	廉女詠草	1				—
	万葉六	万葉集	30	文化9年	版	
〃 橘乃落葉		5	文化12年	版		○
〃 中施頭歌		1			手書	○
〃 山部赤人歌		1		写		○
〃 柿本人麿歌		1		写		○
伊勢物語古意		6		版		○
国学七	新勅撰和歌集	1		写		○
	清少納言	4	慶安2年	版		○
	古今和歌 六帖	6	寛文9年	版		○
	しのぶくさ	4		写	高専の先生調査表折込	○
	涙のまさこ	7	明和5年	版	和歌、元禄10年開版	○
	さごろも	11	承應3年	版		○
	詞の玉の緒	7	文政12年	版	安永8年本居宣長著再版	○
	百人一首拾遺	4	天和元年	版		○
	今古和歌初学	4	弘化3年	版		○
	古今集	2	文化11年	写		○
	千鳥のあと	1	文政2年	版	各種屈物、書式	—
	六経一	詩経説約	26	寛文9年	版	
世説新語補		10	安永8年	〃		○
戦国策		15	寛保元年	〃		○
礼記古註		10	宝暦9年	〃		○
礼記 (後藤點)		4	天明7年	〃		○
周礼		7	寛延2年	〃		○
礼記集註		15	享保9年	〃		○
周易古註		5	宝暦8年	〃		○
標葉孔子家語		5	寛政元年	〃	太宰春台註、標葉孔子家語	○
国語		5	天明6年	〃	塩野尖述撰	○

箱	本名	数	発行年	備考	(有無)
論語二	書法正傳	6			○
	論語古訓 2通	10	天文4年		—
	論語古訓外傳	10			—
	論語徵集覽	20			—
	論語集註	10			○
	論語徵解	2	宝曆12年	竜公美著	○
詩材三	唐後詩辛集	2		版	○
	東野遺稿	3	元文3年	写	○
	玉山先生詩集	3	宝曆4年	版	○
	嚶鳴館詩集	3	明和元年	版	○
	唐詩品彙 五言	8		版 7冊	○
	唐詩品彙 七言	5	元文3年	〃	○
	觀海先生詩集	6	天明3年	〃	○
	李太白絶句	1		版	○
	蹈海集	7	明和6年	版	○
	詩工推鑿	1	天明5年		○
	大東古今詩	1	天明4年		○
	詩文押義要括集	1		写 詩のつくり方	○
	詩学小成	4	明和6年		○
	唐詩礎	1	宝曆6年		○
	明詩礎	1	元文6年		○
	南郭詩集	1	安永3年		○
	詩草判官			市右エ門詩稿	○
	李滄溟尺牘	1	享保15年		○
	唐詩正聲	2	文化9年		○
	唐音 三体詩	1	享保11年		○
詠物詩撰	4	天明元年		○	
絶句解	1	宝曆13年		○	
古文真宝前集素本	3	天和3年		○	
古文真宝後集	1			○	
文林四	文章軌範	4	正徳5年		○
	近思録	4	貞享5年		○
	古文	2			○
	七續	2			○
	南郭先生文集	18			—
	春樵隱士家稿	2		虫喰	○
	文撰	10	元禄13年		○
	辨名	2		虫喰	○
	小品文鈔	3	明治10年		○
	韓文軌範	2	明治26年		○
西東漢イ	前漢書	24			○
	後漢書	24			○
	漢書抄	1			○
大史公ロ	史記	25	明和7年		○
	春秋左子傳	15	安永6年		○
諸子ハ	郭註莊子	10	天明3年		○
	讀荀子	4	明和2年		○
	荀子全書	10	延享2年		○
	韓非子	2	延享3年		○
	老子経	2	正保5年		○
	老子道德経	2	明和7年		○
	趙註孟子	4	延享4年		○
	淮南鴻烈解	5	寛文4年	内7, 8, 9, 10 1冊欠	○
	海国兵談	2	天明6年		○
	世渡名所図会	5	享和2年		○
百家ニ	儀礼鄭註	5	宝曆13年		○
	毛詩名物図説	2	享和元年		○
	書経集註	6	寛文4年		○

箱	本名	数	発行年		備考	(有無)
	毛詩鄭箋標註	9	天明6年			○
	尚書古註	6	天明8年		写本	○
	唐詩撰	2				—
	尚書陸民音義	1	明和5年			○
	語孟字義	1				○
	大学解	1		版		○
	書經蔡傳	1		写		○
	六経略説	1	延享2年		太宰春台撰	○
	六経助辞	1		写		○
	爾雅註疏	5		版		○
	小学句讀	4	元禄6年			○
	尚書孔子傳	1		写		○
	通語	3	天保14年			○
ホ	講釋鍼炳論	20	寛政12年	写	和田廉著 時年廉73才	○
	同上附録 2通	4		写	虫喰	○
	孟子集註	7	元禄4年	版	論語(二)に移	—
	論語古訓	5				—
	毛詩国字辨	10	天明5年	版		○
	観海樓談論語記聞	4			写本	○
ヘ	文公家礼	4				○
	文公家礼解	2		写		○
	経義提要国学解	3		写	和田伴兵衛手書ならん	○
	和讀要領	3	享保13年		太宰春台	○
	中庸或問	1				○
	中庸解	2	宝暦3年			○
	中庸 2通	2		版		—
	春秋	1				○
	詩経 2通	3				○
	書経 2通	3				○
	大学 2通	3				○
	論語 2通	2	天明7年			○
	古文考経正文	2	嘉永4年			○
	孟子	4				○
	大学或問	1				○
	大学中庸解	1		写		○
	中庸章句大全	2		版		○
	大学章句大全	1				—
國史卜	藩翰譜	19		写	和田伴兵衛(吉次郎)写本	○
	御系譜	8		写	同上	○
	本邦続々史記	12		写		○
	最莊越軍記	3		写		○
チ	甲越軍記	36		版	文化4年、文政8年	○
リ	詩学速成	1	寛政			—
	蒙求	3	明和4年		南郭先生	○
	列仙全傳	1		写		○
	劉向説苑 尾張 関嘉	10	寛政6年		関進次著	○
	諸先生文府	1			和田伴兵衛廉著作集	—
	滄溟七絶解開書	1		写		○
	奉觴篇	1	寛保2年	版		○
	韻鏡	1	寛文3年			○
	国学尺牘	1		写		○
	滄溟尺牘	1	享保15年	写		○
	徂徠字則国字解	1	享保20年	版		○
	同上并附録標註	2	天明7年		再版	○
	鶴台先生三之選	1		写		○
	金龍尺牘集	2	宝暦4年			○
	金華先生文集	4	享保13年			○
	菱荷園文集	5	宝暦8年		南郭	○
	徂徠集	1		写		○

箱	本名	数	発行年		備考	(有無)
	徂徠先生国学讀	1				○
	学則辨道	1		写		—
	太宰独語	2		写		○
	徂徠政談	8		写		○
	家道訓	3	正徳2年	版	貝原益軒著	○
	武士訓	2	正徳5年	版	井沢蟠竜子長秀著 肥後	○
	道二翁前訓	1	天明9年			○
	徂徠先生答問書	1	安永7年	版		○
	唐詩品彙	4	享保18年	〃		○
	文筌小言	1	享保19年	〃		○
	女四書藝文図会	4	天保6年	版		○
又	事物記原	10		版		○
	辺要分界	7		写	地理、近藤重蔵	○
	植学啓原	3	天保6年	版		○
	坤輿図織	3	弘化2年		世界地図	○
	坤輿図織補	4	弘化4年		同上	○
	泰西三才正蒙	3	嘉永2年	版	1巻字宙、2巻地質、3巻世界	○
	菖茅危言	10	寛政元年	〃	中井穉○	○
	謁驢夜話集	9			虫喰、和田伴兵衛	—
ル	海外新話	5	嘉永2年	版		○
	海外新話拾遺	5	嘉永2年	〃		○
	新国図志通解	4		版		○
	年中行事大成	6	文化3年			○
	都名所図会	6	天明6年			○
	同上 拾遺	5	天明7年			○
	東海道名所図会	6	寛政9年			○
	清明軍談	5		版		○
	海外人物小傳	5	嘉永6年			○
ヲ	川中嶋	1		写		○
	親族正名	1	享保10年		太宰弥右エ門春台	○
	続和漢名数	3	元禄8年			○
	肥後物語	1		写		○
	喝凡ヶ辻	1		写		○
	三河後風土記長篠攻	1		写		○
	明清圖記	1	寛文元年	版		○
	兵書抄	1	寛政	写	貞教写本か	○
	五十三駅行	1			手書	○
	羽黒詣	1	文久		習字手本 手書	○
	和田先生始発年中記	1		写		○
	大地震御注進書	1	弘化4年		写本	○
	書法発揮	1	宝暦5年	版		○
	掟秘録	1	嘉永3年	写	色々掟秘聞	○
	古列女傳并続列女傳抄	1		写		○
	草書韻会	2		版		○
	町人義	6	享保4年	版		○
	汐路乃旅立 松前行道述自画	1	文化4年	写	北海道旅行記 函館	—
	千代毛登草	1	天明8年	写		○
	集古古浪華帖	1		写		○
	匝米利加渡米記	1	嘉永6年	写		—
	苅萱道心行状記	5	寛延2年	版		○
	眼前教近道		弘化4年	版		○
	呉越軍談	18	元禄16年	版		○
	漢委奴国王	1	文化5年	写	小冊子 金印発掘の標○	○
	詩文抄記	欠				—
	茶之湯之式	1		写		○
	御手本控帳	1			手書 習字手本	○
ヲ	羽黒山頼寄	12	文化3年		手書 孚兌	○
	俳諧	3			手書	○
カ	唐柳河東集	36	寛文4年	版	(内六冊欠)	○

箱	本名	数	発行年		備考	(有無)
	韓昌黎文集	40	万治3年		(内三冊欠)	○
	四家笈	6	宝暦11年			○
ヨ	啓蒙別紙	1	寛政元年	写		○
	授時曆議	2				○
	授時曆経	2	寛文12年			○
	陰陽立成	1		写		○
	易学啓蒙図説	1	元禄13年	版		○
	易学啓蒙説統	2	正徳3年			○
	卜筮元龜	4	正徳4年			○
	卜筮全書	4			漢国版か	○
	易経	2		版		○
	文政五壬午年推曆術	1		写	天文	○
	春光餘録	1	寛政2年	写	道端の添書あり	○
	周易秘事大全	1		写		○
	本卦為事	1	天明9年	写		○
	秘傳八卦大成拔書	1	天明8年	写		○
	曆術	1		写		○
	筮儀傳	1	享保14年	写		○
	新撰周易揲卦	1		写		○
	河洛理教八字秘傳抄	1		写		○
*	梅花心易掌中指南	1				○
	古易断時言	4	明和8年		新井白蛾	○
	易学啓蒙国字解	10		写		○
	官板易正文	2		版	漢国版か	○
	年中迎氣指南	1	正徳5年			○
	日月卦傳抄	2	宝暦3年	写		○
座右	日本外史(二通)	24	元治元年	版		○
	国史略	5	文政10年	〃		○
	十八史略	7	天明5年	〃		○
	蒙求国字辨	6	安永6年			○
五	韻鏡開盒	6	正保4年	版		○
	磨光韻鏡	2	天明7年			○
	韻鏡藤氏傳	1		写		○
	韻鏡和教	1		写		○
	韻鏡袖中秘傳鈔	11	正徳5年			○
	韻鏡口訣	1		写		○
	韻文抄記	1				○
	和漢朗詠集	1		写		○
	四十六士論	2		版		○
	神君御文之写	1	文化9年	写	行道写	○
	心学文集	1		写		○
	先哲叢談目録	1	寛政元年			○
	詩会草稿	1			先哲人名録	○
	為学初問	1	安永7年	版	手書詩稿 貞教	○
	訓訳示蒙	2	明和3年	版		○
	地方落穂集	2		写		○
	鳳山先生上書	1		写		○
	本佐録	1	天明7年	版		○
	合類節用集	4	貞享5年	版		○
	外冠雑記	1		写	天保頃	○
	蝦夷雑話	2			手記実録	○
	庄内二郡五人組掟帳	1	慶應			○
	白詩撰				(不明)	—
	大東世語	5	寛延3年			○
	琵琶引	1			手書	○
	尊円親王御筆跡	1		写		○
雑函	古今銘尺	7	万治4年	版	刀〇銘戸籍(慶長頃の〇)	○
	新增種玉古状揃	1		版		○
	絵本写養袋	2			不明	—
	絵本通宝志	2			不明	—

箱	本名	数	発行年		備考	(有無)
	律令要略	1	寛保元年	写		○
	周南先生之墓碑	1		写	服 元喬撰	○
	小寺信正記并四戦記	1		写	忠○公其他の戦記	○
	書字大概	1	宝暦4年	写		○
	見聞雑林	1		写	譜先生見聞記	○
	紫芝園国字書	1	宝暦4年	版	太宰春台	○
	五雑組拔書	2	文化4年	写	貞教写	○
	膽泊斎雑抄	1		写	市右エ門写本	○
	塗物秘傳	1		写		○
	勤農新書	1	明治14年	版	林遠里	○
	農具便利論	3	文政5年	版	大蔵永常	○
	庄内二郡五人組控帳	1	文政2年	版		○
	要語普録	3		写		○
	水府公叢策	1		写		○
	百一集	1	明和2年	写		○
	女庭訓御所文庫	1	寛政2年	版		○
	女用大成小倉之籠	1		版	百人一首	○
	般若波羅蜜多心経国字解	1		写		○
	酒井家御承因并御先祖知行所				(不明)	-
	白河公家臣へ御教諭の書	1		写	貞教写	○
*	神道答問書	1				
	書翰諺解	1	延宝8年	版		○
	齊家論	1	延享元年	版		○
	元享釈書拔書	2	文化2年	写	貞教写	○
	温泉紀行(温海行き)	1		写	漢文	○
	博覧抄	1		写	勝 写	○
	喪祭	1				-
	論農	1	文政8年	版	(朱)	○
	農家調宝記	1	文化6年	版	(朱)	○
	庄内物語引		享保9年	写	小寺信正	○
	農家業事		文化10年	版		○
ソ	玉篇	12	享保20年	版	字引	○
ツ	字彙	15		版		○
子	聖鳳樓帖	10			寅丑の巻二冊欠 漢版か	○
ラ	合類	13	明和3年	版		○
ナ	淳和法帖	10		写	漢本か 石板摺	○
	淳和法帖釋文	1				○
タ	大泉百談	4		写		○
	六書通	4	安永4年	版	手本	○
	曲亭翁漫筆	3	享和3年	版		○
	北窓瑣談(前後)	8	文政8年	版		○
*	村史略	1				
	御当代系図	1	天保9年	写		○
	庭訓往來 2通	2		版		-
	武家殺法転輪	1	安永2年	写		○
	長雄古状揃	1	安永3年	版		○
	和漢朗詠集	2	貞享3年	版	上下	○
	曹大家女誡図会	1	文政11年	版		○
	柳花衣香口傳抄	1	文化3年	版	生花の本	○
	鉄筆集隨	1			印形、影方	○
	塚田先生御執政申上書	1		写		○
	蟻垤堂并記	1	天明15年	写	蟻の塔の事	○
	四聲いろは韻	1				-
	南郭先生櫛下書	1	享和19年	版		○
	古文孝経序略解	1		写		○
	贈吉子賦序	1		写	詩稿	○
	淳和法帖釋文				(淳和法帖箱二入)	-
	周易解叙	1	文化4年	写	白井重行	○

箱	本名	数	発行年		備考	(有無)
	葛天民詩集	1	文化4年	写	葛岡天民	○
	太上感應篇経文	1		版		○
	群書一覽	6	享和2年	版		○
	書籍目録大全	6				-
	詩文章叢	1	寛政10年		市右衛門詩稿	-
	畫家自在	1	天保11年	版		○
	和漢群書要覽	1	安永7年			-
	都いろは分早引	1	文化8年	版		○
	与石子権	1			二口文書に移す 和田廉	-
	大泉旧事記抜書	1	文化3年	写		○
	発音録	1	元文5年		水野元朗跋	○
	寺院控	1		写		○
	白之庫開書	1	元文2年		「関書七日草」の類本	○
レ	欧蘭新譯地球全図	1	寛政8年	版	世界地図	○
	天文成象図	1	元禄12年	版	天文	-
	歴代帝系并僭偽図	1	享保17年	版		○
	温古和新棋録	1		写	基符	○
	圍碁作物	1	延享5年			○
	碁立初学案内	1		写		○
	玄々碁経	1		写		○
	玄々碁経俚該の解	1				-
	碁経	1	寛政2年	写		○
	奮西亜ヨリ日本人送記	1	寛政	写	最上徳内記等	○
	将棋経	3				○
	将棋経秘傳	1		写	行道写	○
	指月書	1	明和4年	写	將碁	○
	和漢年契	1	天保2年	版		○
	二千年袖撃	1	天保15年	版		○
	聖跡図説諺解	2		版		○
	千字文	1	天明7年			○
	関流算術書	3		写	手書	○
	量地図説	2	嘉永5年	版		○
	永代御江戸絵図	1				-
	日本輿地路程全図	1	不明	版		○
	和漢軍談記略考大成	1	天保12年	版	出版国内記	○
	焰硝製造方	1				-
	泰平武鑑	1				○
	蠻語箋	1	嘉永3年	版	外国語字引	-
	諺本	1		写		○
	耳目抄	1		写		○
	丙丁雜記	1	弘化3年	写	天変地異の事	○
	隊長手控	1			手書 ハッ折帳	○
里見八大傳	南総里見八大傳		文政9年	版		○
ム	面帖					-
	鯉鱗面譜	2				-
	北斎漫画	2				-
	名公扇譜	2				○
	唐詩面譜	7				-
	義之筆陣図	1				-
法帖	千字文 千蔭	2		版	木表紙	○
	堤中納言集 貫之	1	寛永7年			○
*	王羲大雅集	1				-
	王羲香周府君碑	1				-
	文徵明石摺	1		版		○
	秋萩帖	1			小野道風	○
	集古帖 三筆					○
	歐陽詢醴泉銘	1	安永9年	版		○
	庭訓往來	3			尊円親王	-
	彩雲堂書	2			手書	-
	其寧書	3			行書古詩、大篆八分五言律	-

【表二】佐藤東蔵貞教の著作、編書、抜書、写本

	著作名	作成年	内容
1	兵書抄	寛政十年	
2	私記	享和二年二月	漢籍からの抜書き (貞教)
3	「窓のすさみ」抜書	享和二年二月	松崎観海父君記録 (貞教)
4	淮南抄書、文公家礼抄書	享和二年十一月	(貞教)
5	范曄後漢書抄	享和三年七月	(貞教)
6	劉向說苑抄	享和四年一月	(藤貞教)
7	荀子抄	享和四年一月	(藤貞教)
8	分散・齊家	不明	
9	東蔵貞教雜記	不明	「村史略」の下書と思われる
10	村史略	文化二年	家訓書
11	国史綱鑑雜記岩淵集抜書	文化二年八月	和田伴兵衛著 (冬蔵貞教)
12	元享釈書抜書	文化二年十一月	(藤貞教)
13	隅田領袖	文化三年～四年	村方文書の編纂 (佐藤冬蔵貞教)
14	大泉旧事記抜書	文化三年九月	(佐藤冬蔵貞教)
15	神道答問集	文化四年二月	(写本) (冬蔵貞教)
16	五雄組抜書	文化四年八月	(藤貞教)
17	日記	文化四年～五年	(藤冬蔵貞教)
18	温故の記	文化四年三月	貞教夫婦の旅行記 (藤冬蔵貞教)
19	詩会草稿	不明	貞教、市右衛門他の漢詩 (胤親、貞教、藤貞教)

【表三】徂徠関係書籍

荻生徂徠	大宰春台	服部南郭
① 論語徵集覽	① 標箋孔子家語	① 南郭詩集
② 論語徵解	② 論語古訓	② 南郭先生文集
③ 大学解	③ 論語古訓外傳	③ 南郭先生燈下書
④ 中庸解	④ 六経略説	④ 郭註莊子
⑤ 辨名	⑤ 和讀要領	
⑥ 学則辨道	⑥ 古文考経正文	
⑦ 徂徠集	⑦ 太宰独語	
⑧ 徂徠政談	⑧ 親族正名	
⑨ 徂徠先生答問書		
⑩ 徂徠学則国字解		
⑪ 同上并附録標註		
⑫ 徂徠先生国学牘		
⑬ 訓訳示蒙		

松崎観海	徂徠門下	和田伴兵衛
① 観海棲談論語記問	① 論語徵集覽 (松平頼寛)	① 講釋鍼炳論
② 観海先生詩集	② 東野遺稿 (竹村東野)	② 跼驢夜話集
	③ 玉山先生詩集 (秋山玉山)	③ 経義提要国学解
	④ 蹈海集 (服部元雄)	④ 和田先生始発年中記
	⑤ 大学中庸解 (野呂大蔵)	⑤ 諸先生文府 (欠本)
	⑥ 金龍尺牘集 (無隠道費)	⑥ 与石子謹 (欠本)
	⑦ 金華先生文集 (平野金華)	⑦ 藩翰譜 (写本)
	⑧ 紫芝園国字書 (阿部定保)	⑧ 御系譜 (写本)

(注) 「五峯館蔵書」目録より作成

【表四】佐藤家の歴代当主

代数	名前	村役	生年	没年
初代	石見亮	—	—	—
二代	藤藏	—	—	慶長八年(1603)
三代	市右衛門	—	天正十三年(1585)頃か	寛永十年(1653)
四代	藤藏	肝煎	慶長十八年(1613)頃か	寛文二年(1663)
五代	藤藏	肝煎	寛永十七年(1640)頃か	元禄四年(1691)
六代	善三郎	肝煎	寛文九年(1669)頃か	享保十二年(1727)
七代	市右衛門富与	名主	元禄二年(1689)	宝暦十三年(1762)
八代	東藏俊庸	名主	享保六年(1721)	天明元年(1781)
九代	東藏貞教	名主	宝暦八年(1757)	文化五年(1808)
十代	市右衛門孚允	長百姓	明和八年(1771)	文政八年(1825)
十一代	善三郎行道	名主	寛政十年(1798)	安政六年(1859)
十二代	東藏基保	名主	文政六年(1823)	明治九年(1876)

(注)『佐藤東藏家系譜』より作成

【表五】佐藤家蔵書の貸出先・貸出した書物

人名	書物名 (年代順)
①播磨宝蔵院	韓文、柳文、書学大概、鶴台先生三之径、卜筮全書、東海道名所図絵、滄溪尺牘、尚書孔 伝蔡伝、劉向説尺、東亀年書、南郭文集(2)、如來詩集、町人囊、家道訓、和漢歴代備 考、塚田先生書、本佐録、出雲国神寿後釈、学則弁道、文選、齊家論、通語、莊子、啓蒙 読解、草茅危言、年中行事(2)、八大伝、唐詩選解、孟子古義(2)、金華文集、古訓外 伝、鍼灸論、曹大家女誠(2)、よつき草、海外新語拾遺、神輿図識補、和漢年契、閑散 餘録補、曲亭翁漫筆、萬安橋、本邦続々史記、都名所図絵、絵本海外新語、同新国図志通 解、古今集連鏡、貫之の折本、荀子全書、外統荀子、玉あられ、御系譜参考 (計54)
②真嶋家 真嶋藤右衛門 真嶋藤藏 真嶋藤次郎	政談(5)、芥子園画伝、左伝(2)、十八史略、毛詩国字解(2)、心学文集(2)、海仙 画帖、礼記集註、和漢歴代備考、和歌題林、万葉集(2)、里見八大伝(2)、鍼灸談、前 訓、弁道書、経義提要、水府公献策、月桂新話、雲絶間雨夜月、親族正名、近思録、北窓 瑠談、量地図説、国郡全区、泰西三才正蒙、古易断時言、聖宝樓 (計35)
③一日町 進藤周人 進藤道乙	万葉集略解(3)、万葉集(2)、全文抱朴子、柳文(4)、天経或問、名目抄、醫方名物考 補遺、戦国策、草茅危言、通語(2)、桂冠出獄集、秣稜帖、三才正家、鍼集集註、迎要 分解 (計22)
④宮下須佐家 須佐太郎治 須佐太郎兵衛 須佐馬之助	羽州庄内孝子伝、三体詩、古文真宝、運氣論、武家略記、塗物秘伝、神道答問書、孟子古 義、六経略義、官位略記、難波みやげ、東海道名所図会、詩学小成、朱子家訓、里見八大 伝、天橋立、本邦続々史記、肥後物語、大泉百談 (計20)
⑤辻興屋村小笠原道端 小笠原道諦(舍弟)	御文、葛岡詩稿、洛神賦、左伝、毛詩名物図攻、詩工雜鑿、江戸道中記、兩駿夜話集、教 義提要、蒙求国字解、書経集註(2)、四体千字文、論語微解、六書通、海外新話、万葉 集 (計17)
⑥蓮池玄斗(16) ⑦天神堂村上野養齋(16) ⑧大山街道和田氏(16) ⑨角田二口村安右衛門(12) ⑩ 天神町辻将監(6) ⑪建部山比子(6) 計220 (総貸出回数:297、220/297≒75%) 借り手の総 数:約52名	

(注) () は同一書籍を貸出した回数。

【表六】書物の貸出先・預り先・注文先

- ・宝蔵院：先祖権大僧都永尊（慶長十年没）天台宗羽黒山荒沢寺聖之院の末派、播磨京田村に新護山宝蔵院を開創。十代慶海（天保二年没）が手習所を道場に開設。文化十三年以降の門人記録が残っており、善三郎行道の弟安吉郎の名前も見える（文政十三年）。明治に入り播磨小学校となった。（宝蔵院については井川一良「幕末期民衆教育の普及と水準－羽州庄内播磨京田村宝蔵院を例にして」（1992）の論文がある）
- ・真島家：鶴岡で味噌、醤油、酢を製造/販売した富商。善三郎の妹富代が真島藤藏に嫁す（文化十三年）（二番目の妹恒代も鶴岡の富商児玉徳次郎に嫁す）
- ・宮の下須佐家：不詳
- ・進藤周人：享和三年（1803）～文久四年（1864）、藩医、詩文章をよくしたほか和歌に長じ、また絵を描くなど多才な人物として知られた。著書；「進藤周人詩集」「進藤文集」「蘆鶴集」
- ・小笠原道端：生没年不詳、江戸末期京都に上って医業を修めるかたわら和歌の道に精進、帰郷して開業、歌人建部山比子社中の同人となる。漢詩もたしなむ。
- ・蓮池主斗：不詳
- ・天神堂村上野養斎：不詳
- ・大山海道和田家：和田伴兵衛の家の子孫
- ・安右衛門：角田二口村住人
- ・天神堂町辻将監：不詳
- ・建部山比子：庄内藩の祐筆。早くから庄内の女流歌人杉山廉について和歌を学び、京都の公家藤原貞直のもとで歌学を修め、後年庄内で多くの門人を指導。著書に「建部山比子歌集」等
- ・青山村小川氏：小川又次郎（嘉永五年、1857～昭和四年、1929）は自治功勞者。明治二十二年、青山・神花・猪ノ子・成田新田・東沼・善阿弥・角田二口各村が合併し成立した東郷村の初代村長
- ・山王前斎藤五右衛門：不詳
- ・丁字屋門吉：生没年不詳、書肆。文政五年（1822）ごろ鶴岡三日町において鶴岡で最初の本屋を開く。天保三年には庄内藩の御用を命ぜられ、藩主の紋所入りの看板を掲げ屋号を「鶏舌堂」と称し繁盛した。
- ・地文：庄内藩御用商人。道具屋、本屋を営む。
- ・辻興屋村進造：不詳
- ・鳥井河原林東弥：不詳
- ・山王前からや：不詳
- ・東沼村大滝氏：『二口文書』に史料（同家の系譜、文書あり）
- ・土橋村五十嵐作之丞：五十嵐家は善三郎の父市右衛門（佐藤家へ養子）の実家
- ・新形村井上氏：不詳

【表七】書物の授受を行った‘使い人’

名前	角田二口村内の関係 () 内年令
権吉	佐藤善三郎召使 (居村)
安吉	善三郎の弟 (二十三才)
里右衛門	旦那 (高十四石五斗三合六勺) (六十四才)
彦右衛門	佐藤善三郎召使 (善阿弥村)
民治	里右衛門子 (二十才)
* きちよ	旦那 東右衛門 (高一斗七升) (五十三才) の弟与一 (四十一才) の女房 (三十八才)
藤吉	旦那 専助組 とふふ屋伊兵衛 (高五升四合七勺) (五十四才) の子 (二十六才)
つるよ	善三郎娘 元吉女房 (十六才)
東右衛門	旦那 (高七石一斗) (五十六才)
石右衛門	旦那 (高二斗) (二十八才)
おすへ	・里右衛門組日雇取旦那徳助 (高三升五合七勺) の妹 (十三才) ・旦那 石右衛門 (高二斗) の妹 (十六才) のいずれかと思われる
勘七	里右衛門組日雇取旦那 (高一斗五升) (二十才)
元吉	善三郎の弟 (青山村林右衛門より養子) (十九才)
* 勘右衛門	旦那 (高一斗五升) (四十四才)
みよね	石右衛門妹 (二十五才)
おりよ	安吉女房 (二十一才)
子の吉	旦那 権吉 (高四斗二升) の子治吉 (四十五才) の子 (三才)
重蔵	里右衛門の子玄吉 (四十才) の養子 (二十三才)
* 和吉	安右衛門弟 (二十二才)
はつよ	安吉娘 (三才)
* 安右衛門	旦那 (高五石九斗七升五勺) (二十四才)
* 順太	東蔵の子 (十四才) → 改め東太

(注) (1) 天保十二年「角田二口村宗旨人別帳」による
(2) *印は慶応元年「角田二口村戸籍人別の覚」による

【表八】貸出した書物の内「蔵書目録」に無い書物

<p>開口新語、羽州庄内孝子伝、神寿後釈、前句懐紙、洛中賦 其昌書、聖教序、運氣論、武家略記、年代記、芥子園画伝、洛神賦、韓文、柳文、東亀年書、全文抱朴子、如来詩集、頭註朗詠、女大学、和漢歴代備考、唐詩選国字解、鶴岡絵図面、書画一覽、官位略記、出雲国神寿後釈、天経或問、名目抄、鹽方名物考補遺、天橋立、和歌題林、詩工雑鑿、江戸道中記、東都一図絵、風土略記、啓蒙諺解、外題鑑、難波みやげ折手本、桂冠出獄集、田舎莊子、義経千本桜 浄瑠璃本、広野原、神若百ヶ条、閑散餘録補、羽黒詣都路、折手本 二卷 迷部大人之書、澹伯齋詩集、太平記、御殿様系図番付、古訓外伝、絵本伊賀越、歌中山東問答、厭蝕大平樂記、よつき草、大略天学名目抄、大陽盈縮図、天橋立、月桂新話 水東善内之本、雲絶間雨夜月、六書通り、百姓往来、華策譜横根、国郡全図、掛鐘絵図村扣、門樋絵図村扣、聖宝樓、函帖 (計六十七点)</p>
--

【表九】佐藤家（「五峯館藏書」）への預け手および預けた書物

人名	書物名（年代順）
①小笠原道端	法帖、星鳳樓法帖、三義之法帖、閑散餘錄補、人事原、三國志画本、豊太閤真蹟日記、三大考、仲景考、増補元明志略、蒙求拾遺、三山雅集、山海経、一本童菓選、食療正要、海国兵談（2）、辺要分界（2）、梧窓漫筆（2）、釈迦一代記図会、辺思録（計23）
②真嶋家 真嶋藤右衛門 真嶋藤次郎 真嶋藤助	尚書古註、十竹齋、武王軍談、經濟録、階梯天生法、小栗外伝、古今妖魁考、通俗三國志、嚶鳴書遺草、里見八大伝、本朝藤陰比事、道二翁道話、絵本忠臣蔵、梧窓漫筆、義経勲功図絵（計15）
③三日町 丁字屋門吉 （御書物屋）	重編忘仁記、折たく柴、女仙外史、宗禪寺敵討、玉石童子訓、中興武家盛衰記（3）、開卷警奇俠客伝、農具便利論、古今和類初学、地方落穂集、鶴岡昔雑談（計14）
④青山村 小川氏 小川林右衛門 小川又次郎	武王軍談（2）、護国女太閤記（2）、源平盛衰記（2）、奥羽軍談、文選山子点、真田三代記、戊申晴雨考、賊禁秘談談、日本書紀、大久保武蔵鑑（計13）
⑤山王前 斎藤五右衛門	通俗河図誌、通俗忠義水滸伝、同拾遺、前太平記、俊寛嶋物語、北条五代記、豊後鎮西軍記、真田三代記（計8）
⑥進藤周人	白詩選、全文抱朴子、遠西医方名物考補、経史摘語、梧窓漫筆、含蜜開宗、遠西觀象図説（計7）
⑦五日町 地主文藏	普語質屋庫、曾想兵衛胡蝶物語、玉石童子訓、玄閑放言、仙石一件并大塩騒動、鎌倉新話、糸桜春蝶奇談（計7）
⑧蓮池主斗	玉くしげ、伊勢物語新釈、真日靈、産語、二代調累代、古事記伝（計6）
⑨辻こうや 進造	養生囊、療治茶談、老子経国字解、正義之十七帖、弘文館十七帖、漢画指南（計6）
⑩鳥井河原 林東弥	成形図説、農業餘話、穂立手引草、砂糖製作記、武江年表（計5）
⑪山王前 からや	見語大鵬撰、豊後鎮西軍記、庄内物語、庄内昔雑談（計4）
⑫東沼 大瀧氏	真書太閤記、玉たすき、忠臣牛毛記、集義和書并外書（計4）
⑬天神堂 養齋	近世崎人伝、気海観瀾、広益俗説弁談書、先民伝（計4）
⑭土はし 五十嵐作之丞	年代記、朝鮮太平記、通俗十二朝軍談（計3）
⑮新形 井上氏	建部大人手本、論語古訓正文、真書太閤記（計3）
⑯建部山比子	天経或問、天略天学名目鈔、天文図解（計3）
⑰⑱はりま 宝蔵院	太上感應篇和解、初学知要（計2）

（注）預かり総数：文政六年（1823）～慶応二年（1866） 171回

【表十】「預方」に記載あり→「蔵書目録」に記載あり

尊王親王庭訓、星鳳樓法帖、尚書古註、正義之十七帖、白詩選、植字啓原、先哲叢談、都名所図会、同拾遺、里見八大伝、道二翁道話、北窓瑣談、庄内物語、農具便利論、鬪驥夜話集、地方落穂集、海国兵談、辺要分解、古易断時言（計十九点）

【表十一】書物の買入先／売渡先

買入先	書物数	売渡先	冊数
三日町 丁字屋門吉	三十四	三日町 丁字屋門吉	二
五日町 地主文蔵	十四	成田嘉作	二
辻こうや 小笠原道端	八	辻こうや 小笠原道端	一
蓮池主斗	四	東沼村 大瀧三郎左衛門	一
柳や太三郎/塚や仁兵衛	三		
大山海道和田氏 江戸詰 書林萬笈堂	二		
辻こうや 小笠原道周	二		
紅屋辰之助	二		
建部氏	一		
成田吉右衛門様江戸注文 十軒店播磨や勝五郎	一		
成田氏	一		
荒町 三国屋	一		
加賀屋五右衛門	一		
三本木村 九兵衛	一		
林 東弥	一		
尾花 重左衛門	一		
ハリマ 至徳院	一		
不明	三		計 六
	計八十一	その他書籍でないもの	計 七
			合計 九十四

【表十二】書籍貸預記 - 貸方

番号	年月日	書籍名	冊数	貸出先	備考
1	文化 13. 1. 18	開口新語	1	宮下 石山隠居	
2	文政 元. 11. 2	易学啓蒙	2	建部氏	寅十一月、将監様より受取
3	5. 1. 26	羽州庄内孝子伝	1	宮下 須左氏 (直)	亥五月五日受取
4	5. 1. 26	合類節用集	4	建部氏 (直)	卯四月二十二日返ル
5	5. 10. 14	郡書一覽 書之部	1	建部氏 (直)	
6	6. 9. 9	韻鏡開大鑑	6	長崎 健良師 (直)	酉十一月三日受取
7	7. 3. 8	神寿後釈	2	建部氏	卯四月二十二日辻氏へかし方ないたす
8	7. 4. 21	三体詩	1	宮下 須左氏 (直)	亥五月五日受取
9	7. 4. 21	古文真宝	1	須左氏	二月二十七日受取
10	8. 4. 29	前句懐紙	3	白はし 五十嵐作之丞 (直)	
11	8. 9. 2	洛中賦 其昌書	1帖	至徳院 (直)	酉十二月十七日受取
12	8. 11. 1	史記 序より武迄、末ニ出ス	3	至徳院 (直)	
13	8. 11. 16	十七帖	1	建部様 (権吉)	戌十二月十一日受取
14	8. 11. 16	聖教序	1	建部様 (権吉)	同日受取
15	8. 11. 1	史記 序より二迄	3	至徳院 (直)	二月二十四日受取
16	9. 2. 24	千字文	1	至徳院 (直)	三月二十三日受取
17	9. 2. 24	孟子古義 但上ノ巻	1	大山海道 和田氏 (直)	亥一月十六日受取
18	10. 1. 22	藤内親王庭訓	1	新形 井上氏 (直)	代銭済
19	11. 1. 19	初学	2	丘日町 児玉氏	
20	11. 3. 1	政談	8	真嶋	
21	11.	御文 二枚かし		道端老	
22	11. 5. 5	葛岡詩稿	1	道端老 (直)	
23	11. 7. 7	運氣論	1	須左氏	
24	11. 9. 16	陰陽立成	1	山田氏 (直)	
25	11. 9. 16	厩推術 書物札 一枚かし、十二月六日おつき 二巻	1	山田氏 (直)	
26	11. 10. 28	遠鏡	5巻	天神町 将監様	寅十二月受取、真嶋届
27	11. 10. 28	聖教序	1	将監様	丑教序十一月十一日受取
28	11. 12 月	ヒチリキ 壹ツかし		将監様	巳三月七日受取
29	12. 2. 22	武家略記 かし		宮下 須左氏 (直)	
30	12. 11. 17	古事記 三巻かし		将監様	天保四巳十二月二十九日受取、使馬
31	天保 2. 1. 9	年代記 一冊かし		児玉氏	四月十六日返ル
32	2. 1. 24	芥子園画伝 五冊かし、但箱とも		将監様	
33	2. 2. 17	史記 十冊かし		大山海道 和田氏	未十二月二十七日受取、使七右衛門
34	2. 3. 1	洛神賦、其昌書一巻かし		道端様	別紙ニ写ス
35	2. 4. 22	神寿後釈	2	将監様	巳十二月二十八日受取、使馬
36	2. 5. 17	塗物秘伝 かし		宮野下 須左氏 (直)	卯十二月二日受取、直
37	5. 2. 23	徂徠政談	8	荒町 真嶋	九月十二日受取、使伴内馬
38	5. 7. 20	古訓古事記	3	蓮池 (直)	丑二月二日受取、外三板武杖、但八年かし
39	6. 11. 25	芥子園画伝 五冊かし、但箱共		真嶋氏 (番三郎)	十二月二十二日受取、伴内
40	6. 12. 14	導内親王琵琶引	1	大山海道 和田氏 (直)	申三月二十七日受取、直
41	7. 4. 11	韓文	5	ハリマ 宝蔵院 (安吉)	
42	7. 4. 19	南郭文集初篇	6	進造様 (直)	十一月十三日受取、直
43	7. 4. 22	柳文	5	ハリマ 宝蔵院 (番三郎)	五月八日受取、番三郎
44	7. 5. 13	書学大概	1	ハリマ 宝蔵院 (直)	四月二十一日受取、手習子共
45	7. 5. 13	鶴台先生三之径	1	宝蔵院 (直)	四月二十一日受取
46	(未) 6.	卜筮全書		宝蔵院	四月二十一日受取

番号	年月日	書籍名	冊数	貸出先	備考
47	7. 8. 5	左伝	15	荒町 真嶋氏 (里右衛門様)	戊六月十七日受取、彦右衛門様
48	7. 8. 5	神道答問書	1	富ノ下 須佐氏 (直)	一月二十日受取、兄
49	7. 10. 7	萬葉集略解	4	一日市 周人 (彦右衛門様)	内三冊受取、十一月一日、里右衛門様 老簡受取、十一月八日、善三郎
50	7. 11. 4	萬葉集略解 四之上より五迄	3	一日市 周人 (彦右衛門様)	十二月二十六日受取、民治
51	7. 11. 24	十八史略	7	荒町 真嶋氏 (安吉)	子四月十八日受取、新左衛門様
52	7. 11. 27	家語	5	大山海道 和田氏 (直)	
53		萬葉略解	4	一日市 周人 (民治)	二月十六日受取、馬
54	8. 1.	東海道名所図会 六		宝蔵院	四月二十一日受取、手習子共
55	8. 2. 19	萬葉集 十上より十一下迄	4	一日市 周人 (馬次)	五月十一日受取、善三郎
56	8. 5. 12	萬葉集 十式上より十三下迄	4	周人 (きちよ)	
57	8. 5. 27	史記列伝 十五より十七ニ至	3	大山海道 和田氏 (かへ様)	
58	8. 5. 29	滄溟尺牘	1	ハリマ 宝蔵院 (直)	八月六日受取、直
59	8.	尚書孔伝葬伝	2	ハリマ 宝蔵院 (直)	
60	8. 8. 2	劉向説尽	10	宝蔵院 (直)	
61	8. 8. 2	東魯年書	1巻	ハリマ 宝蔵院 (直)	
62	9. 4. 26	徂徠学則国字解	1	辻興屋 進造様 (直)	
63	9. 6月中	東海道名所図会 全部		進造様	
64	9. 7. 18	全文抱朴子 内篇四、外篇四、合八冊		一日市 進藤氏	問遣也、預方ニ出
65	9. 8. 4	左伝一之巻	1	辻興屋 進造様 (直)	
66	9. 8. 6	論語微解	2	辻興屋 進造様 (直)	弘化二巳年四月十五日受取、直
67	9. 10. 20	毛詩国字解	10	荒町 真嶋氏 (藤藏様)	
68	9. 10. 18	書経集注	1	辻こうや 進造様 (直)	
69	9. 11月中	柳文	10	周人様	
70	9. 11月	古今遠鏡	6	主斗様	弘化二巳年三月二十六日受取 安吉
71	9. 11月	孟子古義	4	宮野下 須佐氏 (直)	
72	10. 1. 21	六経略説、書法發揮	1, 1	宮野下 須佐氏	
73	10. 2. 28	徂徠政談	8	荒町 藤藏様	
74	10. 6. 13	左氏伝	15	藤藏様	子三月六日受取、善三郎
75	10. 6. 13	南郭文集	18	ハリマ 宝蔵院 (直)	内六冊受取 七月九日 直 十二冊受取 十二月二日 直
76	10. 6. 13	如来詩集	3	ハリマ 宝蔵院 (直)	
77	10. 6. 13	町人囊	6	ハリマ 宝蔵院 (直)	
78		頭註朗詠	2	新田 太郎左衛門兄 (直)	丑十月二日受取
79	10. 7月	家道訓	3	ハリマ 宝蔵院 (直)	十二月二日受取 直
80	10. 8. 29	海仙画帖	1	荒町 藤藏 (五郎治)	
81	10. 10. 10	礼記集註	15	荒町 藤次郎	十二月五日受取 七右衛門
82		女大学	1	新形 孫作	
83	10. 12. 10	和漢歴代備考	12	荒町 藤藏 (藤吉)	
84	11. 3. 6	和漢歴代備考	12	ハリマ 宝蔵院	
85	11. 3. 7	玉あられ	1	蓮池隠居 (藤吉)	
86	11. 3. 7	東海道名所図会	6	蓮池隠居	
87	11. 3. 7	神寿後積	2	蓮池隠居	メ九冊十一月二日受取 安吉
88	11. 7. 26	戦国策	15	大山海道 和田氏	
89	11. 9. 2	謁驪夜話集	9	大室寺 収助様	辰三月二十一日寄 孫治
90	11. 10. 27	曆推術板巻枚	5	金ノ 山田助右衛門	内一冊受取 十一月二日 安吉 同三冊受取 共五月二十九日 直 同一冊取
91	12. 閏月	学則国字解	1	蓮池主斗	
92	12. 閏月	鍼灸論	10	蓮池主斗	内五冊受取 二月二日 内五冊取 六月九日

番号	年月日	書籍名	冊数	貸出先	備考
93	12. 閏月	唐詩選国字解	1	蓮池主斗	
94	12. 2. 7	鶴岡絵図面	1枚	大宝寺 叡助	
95	12. 2. 14	徂徠政談	8	荒町 藤二郎 (権吉か)	八月一日受取
96	12. 2 月中	戦国策	8	大山海道 喜惣治	六月十三日取
97	12. 2. 25	鍼灸論 一より五迄	5	日市町 文栄	
98	12. 2 月中	書画一覽	1	新田 学映	三月二十三日受取 藤吉
99	12. 5. 27	官位略記	1枚	宮野下 須佐氏 (直)	
100 (子)	11. 10 月	里見八大伝	5	五日町 児玉氏	
101	12. 6. 10	鍼灸論	5	主斗様	九月二十二日受取 藤二郎
102	12. 9. 1	塚田先生書	1	宝蔵院	
103	12. 9. 1	本佐録	1	宝蔵院	
104	12. .	目鏡 一ツ 此分進上		宮野下 須佐氏	
105	12. 3. 2	出雲国神寿後积 二		ハリマ 宝蔵院	
106	12. 3. 2	李白絶句集 一			
107	12. 3. 20	左伝 自一至二	1	辻 小笠原氏	外二書付 一枚
108	13. 4 月	天経或問	3	日市 周人	
109	13. 4 月	名目抄	1	日市 周人	
110	13. 6 月	植学啓元	3	祐諦	
111	13. 6 月	醫方名物考補遺	3	周人	
112	13. 8. 23	唐詩選国字解上之巻	1	蓮池主斗様 (件内)	卯九月二十八日受取 権吉か
113	13. 8. 23	心学文集	1	荒町 真鳴氏	弘化四年六月十八日受取 藤二郎 中江与右衛門著
114	13. 9. 9	鍼灸論	10	蓮池主斗様	卯九月五日受取 石之助
115	13. 9. 9	梅花心易掌中指南 一		天神堂 養斎	辰四月晦日受取 直
116	13. 9. 9	玉篇三ノ下	1	天神堂 養斎	九月二十日受取
117	14. 9 月	産語 二册預		三瀬 大庄屋	閏九月五日返入 藤
118	14. 9 月	淳化法帖七巻目	1	三瀬 大庄屋	岡山返入
119	14. 10. 23	学則弁道	1	ハリマ 宝蔵院 (直)	
120	14. 9 月頃	天橋立	5	天神堂 養斎	
121	14. 11. 24	毛詩国字解	10	新田 太郎左衛門兄	
122	弘化 元. 2. 5	文選 三回合直	1	ハリマ 宝蔵院 (直)	一册請取 辰十一月十日 直
123	元. 2 月	けびぎ板はん 一枚 但小形分		天神堂 養斎 (直)	二月十四日受取 直
124	元. 3 月	葛天民詩集	1	釜津 治右衛門	弘化二年巳三月二十一日受取 道端より
125	卯天保14. 秋 中	産語 預方ニ出ス	2	蓮池主斗	
126	元.	和歌題林	5	荒町 真鳴氏 (権吉か)	内四冊受取 四月十九日 藤 一冊受取 四月二十二日 嘉七
127	元. 4. 14	萬葉集	7	真鳴氏 (彦右衛門か)	四月十九日受取 藤吉
128	元. 4. 22	萬葉集	7	荒町 真鳴氏 (輝吉)	六月二十八日受取 但一より五ニ至ル 里右衛門
129	元. 5. 9	出雲国神寿後积	2	蓮池遠江守様	巳八月十二日受取 彦右衛門か
130	元. 6. 24	書画一覽	1	天神堂 養斎 (直)	
131	元. 9. 26	唐詩選小本 一冊かし		天神堂 養斎 (直)	
132	元. 10. 2	毛詩名物図攷 三冊かし		辻 道端 (昌藏)	
133	元. 10. 19	里見八大伝 五冊かし		荒町 真鳴氏 (御母君)	巳七月二十三日受取 同人
134	元. 10. 晦	詩工雜纂	1	辻 道端 (直)	酉月二十四日受取 直
135	2. 1. 25	戦国策 十五冊かし		日市町 道乙 (藤吉)	申一月十五日受取 藤二郎
136	2. 1. 25	通語 三冊かし		日市町 道乙 (藤吉)	三月二十六日受取 安
137	2. 3. 25	古事記伝 四冊め一冊かし		蓮池主斗 (安古)	七月十一日受取 勘七
138	2. 4. 24	江戸道中記 但東太郎所持之分		辻 道端 (直)	六月五日受取 道端
139	2. 4. 24	東都一図絵	1	天神堂 養斎	
140	2. 4. 29	齊家論	1	ハリマ 宝蔵院様	五月晦日 直

番号	年月日	書籍名	冊数	貸出先	備考
141	2. 6. 10	騮驢夜話集	9	辻 道端 (脇助)	
142	2. 9. 23	経義提要	2	辻 道端	十月六日受取 直
143	2. 12. 5	蒙求国字解	6	辻 道端縁 (直)	四五冊受取 申一月十日 勘七 但二冊目より六冊目迄 同一冊受取 一月二十五日 直 初巻
144	3. 3. 24	草茅危言	10	一日市 周人様 (藤吉)	未二月二十七日受取 善三郎
145	3. 正月	風土略記	10	青山 小川氏 (直)	午十一月十五日受取 亮吉
146	3. 6. 21	通語	3	ハリマ 宝蔵院 (平習子共)	九月一日受取 直
147	3. 11. 晦	莊子	10	ハリマ 宝蔵院 (直)	
148	3. 11. 晦	啓蒙秘解	10	ハリマ 宝蔵院 (直)	〆二十冊受取 午十二月二十七日 九郎治
149	4. 2. 29	書経集註	2	辻興屋 道諦老	
150	4. 12. 18	書経集註 〆六冊かし	4	道諦老御舎弟 (御手息)	六冊受取 嘉永元年八月二十四日 彦右衛門
151	4. 3. 3	通語	3	一日市町 進藤周人様 (善三郎)	
152	4. 3. 26	鶴岡絵図 一折		新町 佐藤直次郎殿 (つるよ)	二月二十三日受取 みよね
153	4. 4. 25	草茅危言	10	番磨 宝蔵院様 (直)	十二月二十六日受取、藤吉
154	4. 6月	外題鑑	1	お良	
155	4. 7. 晦	しんせつ論	10	蓮池主斗様 (権吉か)	十六より二十冊目迄先達より 五冊受取 酉二月十七日 道乙より 勘七右衛門 五冊受取 三月八日 安吉
156	4. 10. 10	難波みやげ	1	宮野下 須佐太郎治 (直)	申一月二十日受取 太郎治
157	嘉永 元. 2. 1	柳文 二より十二迄	8	一日市 進藤周人様 (善三郎)	八冊受取 二月二十四日 勘七 出入りなし
158	元. 2. 25	柳文 十二より三十四迄 十四冊		一日市 進藤周人様 (彦右衛門ち)	三月二十七日受取 東右衛門か)
159	元. 3. 28	柳文 三十五より四十五迄 終	8	一日市町 周人様 (東右衛門ば)	四月二十九日受取 四月二十九日安吉別
160	元. 3月	通語	3	天池長門守様	申一月十四日受取 善三郎
161	元. 3月	北窓瑣談	8	児玉徳右衛門様	
162	元. 4. 26	折手本 一卷 迷辺大人の筆 但古吟集かみ序		大山海道 和田氏 (直)	西五月九日受取 直
163	元. 9. 晦	古訓古事記 須佐氏迄届ケ	3	宮の下 東野作兵衛 (儀藏)	酉三月四日受取 安吉
164	2. 1. 24	桂冠出獄集	2	一日市 周人様 (直)	二月十四日受取 善三郎
165	2. 3. 12	年中行事	6	番磨 宝蔵院様 (直)	
166	2. 3. 24	近思録	4	橋邊医師 盛硯老 (直)	酉九月二十六日受取
167	2. 5. 2	鍼灸論	20	荒町 真嶋氏 (彦右衛門ば)	〆二十冊受取 亥八月十日彦右衛門 ば)
168	2. 5. 18	八犬伝 初篇	5	宝蔵院様 (石右衛門母)	酉十一月三日受取 直
169	2. 6. 9	書家自在	1	荒町 小野田吉右衛門(新左衛門縁)	戌十二月一日受取 善三郎
170	2. 9. 4	東海道名所図会 六之巻一冊		宮ノ下 須佐太郎兵衛 (直)	
171	2. 10. 21	四書大全 論語三ノ巻	1	はりま 盛硯老 (直)	戌二月二十一日受取 直
172	2. 11. 16	田舎莊子	1	五日町 丁字屋門吉 (善三郎)	
173	2. 12. 9	義経千本桜 浄瑠璃本	1	二口 儀藏 (直)	戌一月十六日受取 直
174	3. 2. 3	唐詩選解	2	はりま 宝蔵院様 (直)	十月十五日受取 法印縁
175	3. 3. 7	四体千字文 安吉郎所寄之分	1	辻興屋 小笠原道諦 (俊道周へ)	亥六月十三日 直
176	3. 5. 7	稗藝帖 真嶋へ詔へ	1	一日市 進藤道乙 (俊権吉か)	右一冊受取 戌十一月一日 善三郎
177	3. 5月中	海仙面帖	1	辻将鑑 (権吉か)	戌十月受取 善三郎
178	3. 5. 19	広野原	1	番磨 安右衛門 (使)	
179	3. 5. 19	広野原附録 但風呂敷式ツ并板共	1	安右衛門 (使)	八月十九日受取 善三郎
180	3. 6. 27	孟子古義	2	はりま 宝蔵院 (伝兵衛)	
181	3. 11. 4	神君百ヶ条	1	宮の下 清水増吉 (おすへ)	
182	4. 1. 10	里見八犬伝初篇	5	荒町 真嶋氏 (勘七)	受取二月十四日 治郎右衛門 出入りなし

番号	年月日	書籍名	冊数	貸出先	備考
183	4. 3. 19	孟子古義	2	はりま 宝蔵院 (直)	4月10日受取 子樹二月二十五日 直
184	4. 3. 22	琵琶引 板一枚	1	大山海道 和田氏 (直)	三月二十三日受取 但版共 第二冊
185	4. 4. 3	心学文集	1	外高畑 成田喜作殿 (著三郎)	十一月九日受取 勘七
186	4. 4. 7	琵琶引 写本 真嶋迄届ケ	1	大山海道 和田喜惣治 (復勘七)	八月一日受取 直
187	4. 6. 24	閑散餘録補 安吉部分	1	はりま 柴田盛徳老 (直)	八月十七日受取 直
188	4. 7. 23	徂徠政談	8	宮野下 清水増吉 (馬之助)	子樹二月二十六日受取 安吉部
189	4. 7. 26	三才正家	3	一日市町 道乙様 (勘七)	十月十一日受取 勘七
190	4. 8. 1	尊円庭訓往来 安吉部分	1	大山海道 和田喜惣治 (直)	子樹二月一日受取 直
191	4. 8. 11	前訓 同断	1	荒町 真嶋氏 (権吉か)	
192	4. 8. 11	弁道書 同断	1	荒町 真嶋氏 (権吉か)	6月10日受取 子九月二十九日 直
193	4. 9. 5	出師表上下	1	最上町 相馬順太夫様 (復勘七)	但子墨門吉藏世話
194	4. 10. 10	羽黒詣都路	2	大山海道 和田喜惣治 (直)	
195	4. 10. 10	三都名所	1	大山海道 和田喜惣治 (直)	
196	4. 夏中	龍眼画掛幅 一軸		荒町 小野田吉右衛門	
197	5. 1. 25	易学啓蒙図字解	10	高畑 成田喜作 (復勘七)	年二月二十五日受取 扱すへ
198	5. 1. 28	論語微解	2	辻興や 小笠原道端老 (直)	安政五年八月十一日受取 道周子
199	5. 2. 1	折手本 二卷 迷部大人之書		大山海道 和田喜惣治 (直)	
200	5. 2. 25	金華文集	4	はりま 宝蔵院	三月七日受取
201	5. 2. 25	年中行事	6	はりま 宝蔵院	子樹二月二十五日受取 直
202	5. 閏2月中	滝伯齋詩集 安吉郎写置分	1	天神堂 養斎 (直)	子三月十日受取 直
203	5. 3. 23	太平記 須佐氏より預置分	4	二口 太郎左衛門 (著三郎)	五月七日受取
204	5. 3. 23	鍼筆集誼	1	遠高畑 成田喜作 (直)	十一月九日受取 勘七
205	5. 9. 14	詩学小成 四冊 辻道端へ誂へ遺ス 外ニ朱子家訓 一冊 安吉郎分 分家安右衛門帳写ス		宮野下 須佐馬之助	詩学小成四冊受取 丑一月十九日 安吉郎
206	5. 9. 22	張ぬき形箱 ニツかし 井上氏へ誂へ		新町 佐藤直次郎	丑七月受取
207	5. 9. 28	御殿様系図番付 1枚 安吉郎分		天神堂 養斎 (御出之節)	
208	5. 10. 2	古訓外伝	3	はりま 宝蔵院様 (手習子共)	丑六月十八日受取 子の吉
209	5. 10. 2	鍼炳論	2	はりま 宝蔵院様 (手習子共)	同日受取 子の吉
210	5. 10. 11	経義提要	3	あら町 真嶋藤右衛門 (勘七)	丑四月四日受取 安吉
211	5. 10. 29	古文前集	1	天神堂 養斎 (直)	下冊之所丑一月二十六日受取 直
212	5. 11. 1	羽黒額句懐紙 但箱共	12	青山 明性院 (手習子共)	十二月二十八日受取 右右衛門兄
213	5. 11. 13	鍼筆集誼	1	一日市 進藤道乙 (著三郎)	丑二月十二日受取 直藏
214	5. 11. 26	北窓瑣談 後篇真嶋届ケ	4	辻将監	右四冊受取 六月一日 使真助
215	5. 11. 17	絵本伊賀越 七冊 安吉郎分 歌中山東問答 一冊		大山 萬五郎 (直)	6月10日受取 丑六月一日 直
216	5. 6.	厭蝕太平楽記 十		二口 林太郎左衛門 (直)	加賀慶分十二月四日受取 元吉
217	6. 1. 26	三才正蒙	3	天神堂 養斎 (直)	三月二十六日受取 直
218	6. 2. 9	曹大家女誠 鶴代所持之分	1	はりま 宝蔵院 (復勘右衛門)	受取
219	6. 3. 14	曹大家女誠 鶴代所持之分	4	はりま 宝蔵院様 (直)	六月十八日受取 子の吉
220	6. 4. 24	尊円庭訓 安吉蔵本	1	大山海道 和田喜惣治 (権吉か)	眞島藤+板と、真嶋氏誂へ 丑十月十日受取 直
221	6. 6. 13	よつき草	1	はりま 宝蔵院 (著三郎)	
222	6. 6. 17	伊賀越 安吉郎分	7	青山 治三郎 (直)	
223	6. 6. 25	海外新話拾遺 同人謄写之分	1	宮の下 馬之助 (直)	
224	6. 7. 26	三才正蒙 天の巻	1	天神堂 上野養斎 (直)	丑九月十七日受取 直
225	6. 8. 4	海外新話拾遺	1	はりま 宝蔵院様 (安吉)	八月二十八日受取 直
226	6. 9. 9	文政五壬子推曆	1	天神堂 上野養斎 (直)	寅五月十三日受取 直
227	6. 9. 9	曆術 茶表紙注付	1	上野養斎 (直)	
228	6. 9. 9	陰陽立成 折疊仕立	1巻	上野養斎 (直)	6月10日受取 卯九月十三日 直
229	6. 9. 17	大略天学名目抄	1	上野養斎 (直)	寅五月十三日受取 直

番号	年月日	書籍名	冊数	貸出先	備考
230	6. 10. 5	徒然草	1	蓮池お良 (権吉か)	寅九月十七日請取 善二郎
231	6.	大陽盈縮図 袋入	1枚	天神堂 上野養齋 (直)	寅五月十三日受取 直
232	7. 1. 27	里見八犬伝	5	宮の下 須佐太郎兵衛 (豊作)	
233	7. 1. 27	天橋立	5	宮の下 須佐太郎兵衛 (豊作)	ハ十冊請取 四月三日 豊作
234	7. 10. 6	坤輿図識補	4	はりま 宝蔵院様 (直)	十月二十六日受取 安次郎
235	安政 (嘉永7)冬	本邦続々史記 二篇・三篇	7	宮のド 須佐氏 (おりよ)	四月四日受取 おりよ
236	寅 (嘉永7)冬	肥後物語	1	宮野下 須佐氏 (善二郎)	卯四月四日受取 おりよ
237	2. 4. 7	水府公献策	1	荒町 ましま (善二郎)	卯十一月十九日受取 善二郎
238	2.	標箋孔子家語	5	大山海道 和田直右衛門 (おすへ)	九月十一日受取 直
239	2. 10. 6	清明軍談	5	天神堂 養齋 (直)	十一月二日受取 直
240	2. 11. 25	月桂新話 水東善内之本	6	荒町 真嶋氏 (勘七)	
241	2. 11. 25	雲絶間雨夜月 宮の下作右衛門之本	6	荒町 真嶋氏 (勘七)	
242	2. 12. 4	礼記集註	15	蓮池主斗様	右十五冊真嶋へ届ケ 使権吉かし 巳十一月二日受取 善二郎
243	3. 2. 22	心学文集	1	荒町 真嶋藤右衛門 (善二郎)	
244	3. 4. 7	徂徠政談	8	荒町 真嶋藤右衛門 (権吉様)	
245	3. 7. 4	大泉百談 秩入	4	宮野下 須佐氏 (豊作)	巳九月十七日受取 豊作
246	3. 8. 17	親族正名	1	荒町 真嶋氏 (善二郎)	
247	3. 9. 7	六書通り 一秩 四冊当分		辻興や 小笠原道端 (道周)	受取 九月十六日 勘七
248	4. 1. 4	唐土諸家人物誌	3	主斗様 (善二郎)	
249	4. 4. 2	海外神語 安吉写本分	2	辻興や 小笠原道端 (使守蔵)	巳六月十七日受取
250	4. 6. 4	和漢年契	1	はりま 宝蔵院様 (手習子共)	六月二十四日受取 手習子共
251	4.	閑歌録餘補 安吉部分	1	はりま 宝蔵院 (高田麦丸貴)	午六月六日受取 手習子共
252	5. 1. 7	講釈鍼灸論	20	菱津 治右衛門(野興島御使権左衛門へ)	五月十二日受取 和吉
253	5. 2. 7	曲亭翁漫筆	3	はりま 宝蔵院 (直)	午六月六日受取 手習子共
254	5. 4. 26	萬安橋	2	はりま 宝蔵院 (直)	十一月五日受取 直
255	5. 9. 2	本邦続々史記 初篇	5	はりま 宝蔵院 (直)	
256	5. 12. 5	鍼灸論 四冊ソ		安右衛門 (直)	
257	6. 1. 24	鍼灸論 四冊 ハ八冊	4		
258	6. 2. 5	辺要分界	7	日市 逸藤岡人様	未三月二十九日受取 真嶋
259	6. 3. 11	鍼灸論 十五より二十迄	6	安右衛門	
260	6. 4. 5	鍼灸論 学而篇 ハ七冊かし	1	安右衛門	内五冊受取 五月二十四日
261	6. 4. 4	酒井侯御系図	1枚	八日町 小原源助 はつよへ	七月二十九日受取 おりよ
262	6. 5. 17	都名所図絵	11	はりま 宝蔵院様 (直)	六月二十八日受取 直
263	6. 5. 24	鍼灸論附録	2	安右衛門 (直)	六月二十八日受取 直
264	6. 6. 4	近思録	4	荒町 真嶋氏 (安右衛門)	十月十二日受取 直
265	6. 6. 27	経義提要国字解		安右衛門 (直)	九月十七日受取 直
266	6. 8. 12	芥子園 五冊 箱入 外伊九面帖 一冊 縮図 三冊 ハ九冊箱入之分		面子松山 児玉佐 庭湖	使新左衛門ちハ 真島宅迄届ケ
267	6. 8. 18	百姓往来	1	新田 嘉右衛門 (直)	九月中受取 直
268	6. 8. 18	鍼灸論附録	2	安右衛門 (直)	受取 九月中 直
269	6. 10. 22	北窓瑣談	7	荒町 真嶋氏 (直)	申一月中受取 安右衛門
270	6. 11. 19	南郷先生文集	18	はりま 宝蔵院様 (おすへ)	申三月二日受取 沼三光院丸貴
271	6. 11. 19	絵本海外新話	5	はりま 宝蔵院様 (おすへ)	二月三日受取 丸貴
272	6. 11. 19	同新国図志通解	4	はりま 宝蔵院様 (おすへ)	同断
273	万延 元. 2. 9	毛詩国字弁 蠹地図脱小本	10 2	荒町 真嶋氏 (新左衛門ば)	酉十一月二十一日受取 御使 五月二十九日受取 安右衛門
274	元. 3. 3	年中行事大成	6	はりま 宝蔵院 (沼三光院丸貴)	受取
275	元. 3. 1	本邦続々史記	12巻	新田 太郎左衛門 (直)	受取
276	元. 7. 1	古今集遠鏡	6	はりま 宝蔵院 (丸貴)	九月一日受取 直
277	元. 10. 22	王注老子道德経	2	二口 安右衛門 (直)	

番号	年月日	書籍名	冊数	貸出先	備考
278	元. 10. 22	軍書要覧	1	安右衛門	
279	文久 元. 2. 21	毛詩鄭箋	9	安右衛門	
280	元. 2. 21	毛詩名物図考	3	安右衛門	十二月二十五日受取 和吉
281	元. 2. 21	同図説	2	安右衛門	
282	元. 6. 8	筆策譜横帳 但了随君書	1	二口 安右衛門 (直)	八月 日受取 直
283	元. 7. 14	植学啓原	3	二口 安右衛門 (順太)	八月 日受取 直
284	元. 8. 19	国郡全図 上下 箱入	2	荒町 真嶋氏 (安右衛門)	受取
285	元. 8. 19	鍼ゼン論 但郷堂遍迄	10	二口 安右衛門 (直)	十二月二十七日受取 か
286	元. 8. 26	泰西三才正蒙	3	荒町 真嶋藤蔵 (安右衛門)	十二月二十五日 和吉受取
287	元. 11. 21	古易断時言	4	荒町 真嶋氏 (網使)	
288	2. 4. 7	真之の折本 但板表紙	1巻	はりま 宝蔵院様 (直)	
289	2. 4. 7	荀子金書 十冊, 外続荀子四冊		はりま 宝蔵院様 (直)	亥四月五日受取
290	2. 4. 10	玉あられ		はりま 宝蔵院様 (順太)	
291	3. 3. 26	草茅危言 真嶋氏江詠へ	10	三日町 養齋老 (すへの)	
292	3. 4. 14	掛桶絵図村扣	1枚	柳原 佐藤氏 (熊吉)	
293	3. 4. 14	門桶絵図村扣	1枚	佐藤氏	外二分廻し 一廻かし 右受取候
294	3. 10. 10	聖宝樓	2巻	荒町 真嶋氏 (藤蔵)	
295	3. 10. 10	函帖 当時真嶋在宅	1巻	松山 喜八郎 (直)	
296	元治 元. 4. 18	御系譜参考	8	はりま 宝蔵院様 (順太)	
297	慶応 2. 11. 14	萬葉集 但一より上迄	5	酒田 小笠原道端老	

【表十三】書籍貸預記 - 預方

番号	年月日	書籍名	冊数	預り先	備考
1	文政 6. 11. 27	年代記	1	土はし 五十嵐氏	成一月二十五日返す
2	8. 2. 19	建部大人式ヲ折手本	6枚	新形 井上氏 (孫次郎)	返す
3	10. 1. 22	貫之集	2	児玉氏	成十二月二十一日返す 横七右衛門
4		幕内親王庭訓 預		山彦氏	此代金武歩護 徳虎次 文政九戌十一月賀朝之禮ニいたす 出入なし
5	10. 5. 7	歌行詩諺解	1	玄泰老 (善三郎)	五月二十五日返す
6	11. 8. 14	論語古訓正文	1	新かた 井上氏	返す
7	11. 8. 14	法帖	1	辻 道端様	三月朔日返す
8	天保 2. 3. 1	星鳳樓法帖	2卷	道端様	巳四月二十一日返す 使善三郎
9	2. 3. 1	王義之法帖	1卷	同所	巳四月二十一日返す 使善三郎
10	6. 3月	養生義	4	進造様 (権吉)	
11	6. 3月	療治茶談	2	進造様	ノ六册八月返す 善三郎
12	7. 4. 13	老子経国字解	3	進造	
13	7. 4. 13	尚書古註	3	真嶋	
14	7. 4. 18	西游旅障	5	大山 清三郎(宮之下太郎兵衛)	
15	7. 4. 29	天経或問	3	建部山比子様 (伴内)	
16	7. 4. 29	天略天学名目鈔	1	建部山比子様 (伴内)	
17	7. 4. 29	天文図解	5	建部山比子様 (伴内)	ノ九册返す 暫一月十六日 三之丞
18	8. 6. 5	王義之十七帖 点付	1	辻こうや 進造様	
19	8. 6. 5	弘文館十七帖	1	辻こうや 進造様	
20	8. 6. 22	十竹斎	16	荒町 真嶋 (善三郎)	
21	9. 月失念	白詩選	1	一日市 周人様	
22	9. 7. 28	全文抱朴子 内篇四册 外篇四册		周人様	
23	10. 8. 29	漢國指南 三册映入		進造様 (五兵衛)	
24	11. 3. 6	玉くしげ	1	蓮池	
25	11. 3. 6	伊勢物語新釈	6	同所	
26	11. 3. 6	真日堂	1	同所	ノ八册返す 丑三月二十七日 藤吉
27	11. 3. 14	天経或問	3	建部畑作	
28	11. 3. 14	大略天学名目鈔	1		
29	11. 3. 14	天文図解	5		ノ九册預 九册返す 嘉永五年子四月 十四日 善三郎
30	12. 閏月11	武王軍談	10	小川氏 (元吉)	未=出ス
31	12. 閏月11	護国女太平記	3	小川氏 (元吉)	
32	12. 2. 5	源平盛衰記 但端本	20	小川氏 (元吉)	高源寺へかす 十二月二十六日受取 少衛
33	12. 2月月上旬	通俗両國志	20	山王前 五右衛門	二月二十九日返す 藤吉
34	12. 2. 11	中山伝信録	6	道端様	
35	12. 2月中	武王軍談 一、二合卷	1	藤次郎	八月朔日返す て=
36	12. 閏. 11	武王軍談	19	小川氏 (元吉)	但久米氏へ貸 八月十二日返す 元治
37	12. 5. 27	袖玉武鑑	1	須佐氏	六月朔日返す 安吉
38	13. 1. 14	閑散餘録補	1	小笠原道端 (伴内様)	三月五日返す 伴内
39	13. 4月	遠西医方名物考補 橋齋先生述	3	一日市 周人	八月二十二日返す
40	13. 同日	植学啓原 宇田川榕庵著	3	五日町 祐諦	
41	13. 10. 1	通俗忠義水滸伝 上篇十五册と 中篇十册目迄	25	山王前 五右衛門 (藤吉)	
42	13. 10. 16	通俗忠義水滸伝 ノ四十四册	19	山王前 五右衛門 (伴内)	

番号	年月日	書籍名	冊数	預り先	備考
43	13. 10. 16	岡拾遺	26	山玉前 五右衛門 (藤吉)	ア七拾遺預ル十一月二十二日返ス 藤吉 内六冊向本也 残六十四冊正本 出入なし
44	14. 2. 8	経済録 快入	5	真嶋氏 (藤吉)	二月十九日返ス 藤吉
45	14. 2. 25	奥羽軍談 十二冊預ル	12	小川氏 (弘治)	
46	14. 4. 21	人事原 日月二冊	2	辻こみや 道端老 (基助)	五月二十四日返ス 俵内
47	14. 5. 20	三国志画本	10	辻こみや 道端老 (安吉)	六月六日返ス 藤吉
48	14. 6. 5	密秘天生法 鶴岡石塚克孝撰	1	荒町 真嶋藤助	返ス
49	弘化 元. 1. 29	前太平記 二十一冊預	21	山玉前 齋藤五右衛門 (藤吉)	四月二十八日返ス 藤吉 大妻一升返ス 同日 同
50	元. 2 月	文選山子点 二冊預	2	青山 小川氏 (源治)	此宅藏院へ貸ス 同人より小川氏へコレ返約束
51	元. 2 月	俊寛嶋物語	7	山玉前 五右衛門	但全部十冊之内、四、十、十一冊はし ぼん也 三月二十四日返ス 真嶋より返し
52	卯(天保14)秋中	産語 二冊預	2	蓮池主斗	
53	元. 3. 25	小栗外伝前篇	6	荒町 真嶋氏 (藤吉)	此宅真嶋氏
54	元. 3. 25	小栗外伝後篇 十一冊之内一冊欠ケ	10	荒町 真嶋氏 (藤吉)	此宅青川喜右衛門 ア十六冊返ス 五月十五日 彦右衛門 チノ 出入なし
55	元. 3. 25	北郷義談	8	一日市町道乙様 (彦右衛門か)	本へ西海氏所持 四月十九日返ス 藤吉 出入なし
56	元. 4. 29	源平盛衰記 二十四 俱合巻		青山 小川氏 (元吉)	
57	元. 5.	真書太閤記初へん 一より三十二巻	6	新形 井上氏	
58	元. 6. 1	真書太閤記 二篇	6	新形 井上氏 (藤吉)	
59	元. 7. 10	近世畸人伝 五冊預	5	大神堂 養斎老	
60	元. 7. 13	日光供奉御役人名前 帳	1	おし切 吉内	
61	元. 7. 13	庄内二郡御高帳并免付 キ	1	おし切 吉内	午七月返ス 直一
62	元. 8. 1	真書太閤記 五へんめ	6	新形 井上氏 (わかせ)	八月二十五日返ス 勘七
63	元. 8. 1	真書太閤記 但七編目より十二編	60	東宿 大滝氏 (元吉)	巳十月十九日返ス 元吉
64	2. 3. 12	豊太閤真蹟日記	1	辻 道端 (安吉)	
65	2. 3. 26	経史摘語	2	一日市 周人 (安吉)	
66	2. 4. 3	真田三代記 十九巻 俱合巻		青山 小川氏 (元吉)	午三月二十三日返ス 元吉
67	2. 4. 26	三大考 服部中庸著	1	辻 道端 (安吉)	
68	2. 4. 26	仲景考 平田大学篤胤著	1	辻 道端 (安吉)	ア二冊 巳六月七日返ス 藤吉
69	2. 5. 7	荘内物語	2	山玉前 からや	返ス
70	2. 5. 7	荘内昔雑談	2	山玉前 からや (安吉)	返ス
71	2. 5. 7	西山遺事	5	宮野下 東野氏 (安吉)	巳五月二十五日返ス 藤吉
72	2. 5. 7	犬社考	2	宮野下 須佐氏 (安吉)	巳五月二十五日返ス 藤吉
73	2. 4.	先哲叢談	4	新渡町 菅原由吾	
74	2. 5. 12	近世畸人伝 但前編五冊、後編五 冊	10	横山 菅原理内	八月五日返ス 養斎へ
75	2. 10. 24	古今集断解	8	宮野下 東野氏 (安吉)	團人様へかす 受取 午四月十八日返ス 安吉郎
76	3. 2. 4	真田三代記 四十三巻 但初編より三編迄 初編目七、八、九、十 破本也		山玉前 齋藤氏 (便藤吉)	二月十日返ス 藤吉

番号	年月日	書籍名	冊数	預り先	備考
77	3. 2. 17	都名所図会	4	十日町 茂助 (安吉)	
78	3. 2. 17	都名所図会拾遺	7	十日町 茂助 (安吉)	
79	3. 2. 20	真田三代記 三十卷 但四編五編目迄		山王前 斎藤氏 (佐藤吉)	
80	3. 3. 23	武王軍談 二十一卷		青山 小川氏 (元吉)	五月十五日返す 元吉
81	3. 4. 25	小栗外伝	18	大山 吉川喜右衛門 (彦右衛門か)	五月四日返す 藤吉
82	3. 5. 4	稲倉漫筆 前編後編三編	6	一日市 周人様 (藤吉)	
83	3. 8月	古今妖魁考	3	真嶋氏	宋六月十三日返す 安吉
84	4. 2. 4	玉たすき	4	東沼 大瀧氏 (藤吉)	全部十二冊稿、内一、二、三、四、五取 戻
85	4. 2. 4	忠臣牛毛記	6	東沼 大瀧氏 (藤吉)	〆十冊返す 二月二十一日 喜惣右衛 門
86	4. 2. 29	増補元明志略	4	辻 道端老 (安吉)	三月二十五日返す 安
87	4. 2. 29	蒙求拾遺	3	辻 道端老 (安吉)	
88	4. 3. 25	三山雅集	3	辻 道端老 (安吉)	
89	4. 3. 25	山海経	5	辻 道端老 (安吉)	〆八冊返す 四月十五日
90	4. 6. 18	成形図説	10	林東弥様 (惣三郎)	
91	4. 10. 3	農業餘話 小西藤右衛門著	1	林東弥様	但上下両巻
92	4. 10. 3	穂立手引草 在江 酔吟子ノ作	1	林東弥様	
93	4. 10. 3	砂糖製作記 東郡 木村又助作	1	林東弥様	
94	嘉永 元. 1. 19	尚書経典餘師		矢馳 九兵衛 (安吉)	須佐氏より 三月七日返す 矢馳へ 安吉 出入なし
95	元. 2. 24	含密異宗	6	一日市 周人様 (佐藤七)	五月九日返す 権吉か
96	元. 4. 4	戊申贈雨考	1	青山 小川林右衛門	尾張家学館門人平井豊彦度之著
97	元. 4. 11	通俗三國志	11	荒町 真嶋氏 (彦右衛門ち)	四月二十九日返す 安吉郎
98	元. 4. 29	嚶鳴館遺草	6	荒町 真嶋藤右衛門 (安吉郎)	大山海運へ返す
99	元. 5. 11	重編応仁記	20	三日町 御書物屋 (彦右衛門邊)	申五月晦日返す 勘七 此見料十日限 百五十文返す 同日 間 出入なし
100	元. 7. 18	道中膝栗毛 四十三冊 也	43	横山 多右衛門 (惣助)	四十三冊返す 十月十六日 惣助 新語一冊返す 出入なし
101	元. 9. 26	折たぐ柴	10	三日町 丁字屋 (惣三郎)	此見料百十二文返す 十二月二十五 日 同人
102	2. 1. 2	昔語賀屋庫	5	五日町 地文	此見料五十文返す 一月十五日 勘七
103	2. 1. 16	曾想兵衛胡蝶物語		五日町 地文 (勘七)	九冊返す 此見料八文私 二月五日私 惣三郎 出入なし
104	2. 3. 23	朝鮮太平記	15	土橋 作之丞 (安吉)	
105	2. 3. 23	通俗二朝軍談 十四		土橋 作之丞 (安吉)	〆巻数二十九返す 西九月四日 儀藤
106	2. 4.	集義和書并外書共	10	沼 大瀧三郎右衛門 (安吉)	
107	2. 4. 6	北越奇談	6	五日町 尻玉氏	但貸本之由 返す
108	2. 5. 17	里見八大伝 二篇五冊 三篇五冊		荒町 真嶋氏 (安吉)	ほりま宅藏院様へかす 但御廻端之御本之由 六月十八日返す 安吉
109	2. 6. 19	里見八大伝 四篇五冊 五篇五冊 合十冊		荒町 真嶋氏 (安吉)	同所へ貸す 同断
110	2. 6.	賊禁秘談	3	青山 小川氏	七月二日真嶋へ貸 新左衛門か
111	2. 7. 2	北条五代記	10	山王前 五右衛門 (新左衛門塚)	
112	2. 7. 25	豊後鎮西軍記	34	山王前 五右衛門 (勘七)	〆四十四冊返す 十二月十八日 又五 郎
113	2. 9. 3	本朝藤陰比事	7	荒町 ましま (安吉)	西十月五日返す 勘七

番号	年月日	書籍名	冊数	預り先	備考
114	2. 9. 3	道二翁道話	12	荒町 ましま (安吉)	同日返す 同
115	2. 10. 24	沿革地図	1	菱津 (安吉郎)	須佐氏より贈り 成四月二十日 須佐馬之助殿へ送へ 返す
116	2. 11. 2	大岡政要実録	10	宮の下 本間又藏 (太郎治)	箱篋二把返す 十二月二十七日 柴松 須佐氏迄返す
117	2. 11. 4	女仙外史	12	三日町 丁字屋門吉 (善三郎)	十一月八日渡す 彦右衛門は 明湖ノ事ヲ記ス 清ノ昌逸ノ作 天下四大奇書 菟蓐三國志 水滸伝 金瓶梅 女仙外史
118	2. 12. 13	赤穂義士伝	10	三日 嘉右衛門 (直)	十一月十五日返す 長蔵
119	3. 2. 9	宗禪寺敵討	10	三日町 門吉 (東右衛門母)	名不雪再横瀬といふ 一覽後長崎へ送す 長崎より廻し返す
120	3. 3. 8	日本書紀	1	音山 小川又次郎 (元吉)	
121	3. 3. 8	日本王代一覽	7		元八冊返す 六月十六日 元吉
122	3. 3. 晦	玉石童子訓 三編目 十一より十五迄	5	三日町 門吉 (善三郎)	四月九日返す おつき
123	3. 4. 9	玉石童子訓 四編め 十六より二十 迄	5	五日町 文蔵 (おつき)	此見料七十文払 四月十三日 右衛 門母 同日書物返す
124	3. 4. 17	播州名所巡覧図会		天神堂 助右衛門 (勘七)	五冊外二板一枚返す 九月十三日返す 勘七
125	3. 4. 20	玉石童子訓 四へんめ 二十一冊より二十五 冊迄	5	三日町 門吉 (善三郎)	但真嶋へ廻す 四月二十八日返す 彦 右衛門様
126	3. 5. 27	南湖画帖	1	辻将監 (善三郎)	十一月返す 善三郎
127	3. 8. 9	一本童葉選	4	辻 道端 (栄松)	
128	3. 8. 9	食療正要	4	辻 道端	
129	3. 11. 3	見語大鵬撰	9	山王前 からや (勘七)	十一月十四日返す 勘七
130	3. 11. 3	豊後鎮西軍記 三十四		山王前 からや (勘七)	亥三月二十三日返す 勘七
131	3. 11.	謡曲春菜物語	5	三間在家 清兵衛 (善三郎)	十一月五日返す いの吉へ
132	3. 12. 8	大久保武蔵殿	4	小川又次郎 (元吉)	
133	3. 12. 8	藤国女太平記	3	小川又次郎 (元吉)	元七冊返す 亥四月十一日 元吉へ送 へ
134	4. 4. 4	速西観象図説	1	一日市 進藤周人老 (善三郎)	七月十八日返す 善三郎
135	4. 5. 29	中興武家盛衰記	5	三日町 門吉 (安吉)	五冊返す 七月五日 徳助 新田太郎左衛門より
136	4. 6. 22	中興武家盛衰記	5	三日町 門吉 (善三郎)	
137	4. 7. 3	中興武家盛衰記	5	三日町 門吉 (善三郎)	元十冊返す 九月十五日 勘七 全部十五冊見料百文払 同日 同
138	4. 8. 13	唐土訓蒙図彙		新田 嘉右衛門 (子の吉)	五冊返す
139	4. 8. 27	玄同放言 前集三冊 二集三冊	6	五日町 地文 (権吉か)	
140	4. 8. 27	仙石一件并大塩騒動	1	五日町 地文 (権吉か)	
141	5. 1. 29	開卷警奇侠客伝	5	三日町 門吉 (善三郎)	五冊返す 三日切見料百文返す
142	5. 2. 21	気海観瀾 一冊 広益俗談弁駁書 二冊		天神堂 上野養斎	
144	5. 3. 11	武江年表	4	鶴井河原 林東弥様 (善三郎)	
145	5. 12. 1	延宝元禄普我	1	二口 太郎左衛門 (兄)	藤辺氏宅迄 丑六月二十八日返す 安吉
146	6. 2. 9	太上感応篇和解	4	はりま 宝蔵院様 (竹蔵)	丑冊 丑月二十三日返す 勘七
147	6. 3. 15	赤穂義士伝	10	新田 嘉右衛門 (安吉)	丑六月十八日返す 安吉
148	6. 4. 5	農具便利論 三 買入		三日町 新田 丁字屋 (善三郎)	
149	6. 6. 17	荒川武勇伝 二通り預		音山 治三郎 (直)	内一通返す 六月二十八日 治三郎
150	6. 3. 3	脚駢夜話集 二冊預ル		宮ノ下 須佐氏 (安吉郎)	此分實録 ましまより明輪へかし 右二冊 卯十一月十九日受取 善三郎 卯十二月六日 須佐氏へ返す

番号	年月日	書籍名	冊数	預り先	備考
151	6. 7. 26	先民伝	2	天神堂 上野養斎 (直)	
152	安政 元. 3. 2	絵本忠臣蔵 箱入	20	荒町 真嶋氏 (善藏)	四月十四日返ス、善右郎様へ
153	元 4.	古今和韻初学 小本四冊		三日町 丁字屋門吉 (善三郎)	五月中聖池主斗様へかし置 右代金貳朱四百五十文減ス 寅六月朔日 丁字屋門吉へ 善三郎 右四冊 卯二月四日 主斗様より受取 善三郎
154	元. 7. 25	三代調粟代	6	蓮池主斗様 (善三郎)	成田喜作殿へかし 此分安政二卯二月四日主斗様へ返ス 善三郎
155	2. 1. 4	地方落穂集	1	三日町 門吉 (善三郎)	十月十七日返ス 善三郎
156	2. 3. 29	海国兵談	2	辻興屋 小笠原道端様 (勘七)	右二冊返ス 九月二十九日 彦右衛門 出入なし
157	2. 10. 3	輪征傳略 但他家本	5	新田 太郎左衛門 (直)	十月十日返ス 安吉
158	2. 10. 29	雪のたへま雨夜月	6	宮ノ下 作右衛門 (幾作)	辰三月三日返ス 和吉
159	3. 1. 7	辺要分界	7	辻 道端様 (勘七)	四月晦日返ス 直
160	3. 6. 9	栞窓漫筆 三篇目	2	荒町 真しま (安吉郎)	省二冊 はりま法印様へかし 八月受取
161	3. 9. 12	栞窓漫筆 前後二篇	4	辻 道端様	右四冊返ス 巳四月九日寧藤院様より 道端様へ 熊吉
162	4. 1.	鎌倉新話 一名矢筈大紋	6	地文 (善三郎)	
163	4. 1.	糸桜春蝶奇談	8	地文 (善三郎)	
164	4. 3.	初学知要	3	はりま 宝蔵院様 (安吉郎)	六月二日返ス 手習子共へ誂へ
165	4. 3. 26	釈迦一代記図会	6	辻興や 道端様 (安吉郎)	対馬丸蔵之本 六冊返ス 四月二十八日 和吉 出入なし
166	4. 5. 20	辺要分界	7	辻興や 道端様	
167	4. 5. 20	海国兵談	2	辻興や 道端様	〆九冊預 真嶋へかし 右九冊真嶋より手前へ巳十一月二十 日 善三郎 午八月二十日 九冊買入
168	4. 5. 20	古易断時言	4	主斗様	
169	4. 7. 16	古事記伝	6	蓮池主斗様 (善三郎)	はりま宝蔵院様へかし 右六冊 巳九月二十二日小宗田清三 郎より受取 九月晦日真嶋氏へ誂へ返ス 使彦右 衛門様へ
170	4. 7. 21	鶴岡昔雑談	1	三日町 丁字屋門吉 (善三郎)	真嶋氏へ貸 八月六日丁字屋門吉へ返ス 善三郎 出入なし
171	5. 5. 1	義経勲功図絵	10	荒町 真嶋氏 (使彦右衛門様へ)	
172	万延 元. 2. 3	大岡仁政録	20	二口 安右衛門 (直)	
173	文久 3. 3. 14	東海道名所図絵	3	はりま 宝蔵院様 (順次)	上より三冊 四月三日受取 直
174	3. 3. 20	同断 次より三冊		宝蔵院様 (順次)	同日受取 直
175	慶応 2. 2. 19	近思録	4	荒町 真嶋氏 (東太)	